第57回国民体育大会よさこい高知国体

男女総合は愛知県が2連覇、女子総合も獲得



天覧試合

大会初日、高知女子大学池キャンパスでの成年女子高知県対奈良県の１戦は、天皇皇后両陛下をお迎えしての天覧試合となりました。最近では３年前の第54回熊本国体でご観戦なされています。両陛下は、選手のプレーに対し盛んに拍手を送られ、ご観戦を楽しまれたご様子でした。

ご休憩中には、日本協会米倉会長と高知県協会片岡会長と懇談なされ、皇后陛下が小学校時代ドッジボールをなされた話などされ、ハンドボール競技に対するご興味を深められたご様子でした。

第57回国民体育大会よさこい高知国体は、10月27日(日)から31日(木)まで、県立高知南高校、県立高知女子大池キャンパス、県立高知西高校で開催された。

注目の天皇杯得点は、愛知県が昨年に引き続き第１位となった。また、愛知県は皇后杯得点も第１位を獲得した。

総合成績一覧表

男女総合順位

順位	都道府県	得点
1位	愛知県	82.5
2位	山梨県	62.5
3位	香川県	60.0
4位	熊本県 三重県	57.5
6位	京都府 石川県	52.5
8位	広島県 宮崎県 沖縄県	50.0

女子総合順位

順位	都道府県	得点
1位	愛知県	57.5
2位	石川県	52.5
3位	山梨県 沖縄県	50.0
5位	熊本県	45.0
6位	京都府	40.0
7位	兵庫県 東京都	35.0

愛知県は、種別優勝は一つも無かったが、成年男子、成年女子、少年女子で満遍なく得点を挙げ総合優勝となった。同様に香川県も成年男子、成年女子、少年男子で得点を挙げ３位に入賞した。第２位の山梨県は、成年女子での優勝に少年男子の５位入賞が加わり総合での準優勝となった。このほか上位入賞府県は、２種別での種別入賞であった。第８位の入賞県は、一種別での優勝が要因となっている。

女子総合では、１位と２位の愛知県、石川県が２種別で

の得点であった。３位以下は一種別での得点であった。

全体的には、得点に絡む都道府県が昨年より多くなって、得点が分散する傾向であった。そのため、総合優勝の得点も昨年の92.5点から82.5点と下がっている。

【成年男子】

広島県（湧永製薬）が３連覇

成年男子は、各ブロック代表16チームで戦われた。

１回戦は、千葉県対福島県、神奈川県対香川県、岩手県対兵庫県が一点差の好ゲームであった。その他のゲームは、日本リーグとの対戦となり大味なゲームであった。千葉県対福島県は、千葉県が速攻で得点を重ねて20－16で前半を終了した。後半福島も追い上げたが、結局届かなかった。神奈川県対香川県は、立ち上がりから激しい攻防が続いたが、14－10で神奈川県リードで前半を終了。後半香川県が速攻で追い上げ、27分に逆転をし、そのまま逃げ切った。岩手県対兵庫県は、お互いに持ち味を出し、前半を12－12で折り返した。後半に入っても展開は変わらなかったが、兵庫県に退場者が出る間に着実に加点した岩手県が接戦をものにした。

２回戦は、千葉県、香川県、岩手県が日本リーグチームに挑む形となったが、いずれも力の差を見せ付けられ敗退した。唯一熊本県対埼玉県は日本リーグ同士の戦いであった。このゲームは、前半両者一歩も引かず一進一退の攻防が続き、10－９で熊本県リードで終えた。後半一時は熊本県が引き離すが、熊本県が退場者を出したことをきっかけに逆転に成功した。その後も岩本の効果的なサイドシュートなどで、22－19で埼玉県が勝利をおさめた。

■準決勝

広　　島　34（14－８／20－９）17　埼　　玉

（戦評）序盤、両チームとも厳しいマークのディフェンスに果敢に攻めるが、なかなかシュートチャンスの形まで持って行くことができない。しかし、10分過ぎから試合が動く。立て続けに退場者を出した埼玉を尻目に広島は速攻で確実に点を重ね、差を広げる。また、広島７番中山のロングシュートが効果的に決まり、広島に流れが傾いたまま14－８で前半を終える。後半、埼玉も息を吹き返し、パスカットからの速攻でじりじり追い上げるが、逆に試合巧者の広島のプレーに退場者を出し、点差を広げられる。決定的なシュートチャンスを広島ＧＫ坪根に阻まれ、リズムに乗り切れなかったこともあり、終わってみれば34－17で広島に軍配が上がった。（掛橋勇人）

三　　重　27（12－10／10－12／（延長）／３－１／２－１）24　愛　　知

（戦評）序盤、三重はポスト池辺の横の動きを起点として始まる速いパス回しから愛知のディフェンスをずらし得点を重ねる。この速いパス回しは速攻においても威力を発揮する。しかし、愛知も三重の高身長をものともせずディフェンスの上からシュートを決め、均衡した試合が繰り広げられ、12－10で三重がリードし前半終了。後半、愛知のＧＫ日原が７ｍＴを立て続けに止め、また、三重の退場者も増えたことにより、後半28分愛知が三重をとらえ延長戦に突入。延長戦、三重のキーマン谷口が中心となり得点を重ね27－24で三重が接戦を制した。（坂本済浩）

■3位決定戦

埼　　玉　31（15－８／16－12）20　愛　　知

（戦評）前半10分を終え、埼玉は固さ残る愛知のポストプレーを封じ、埼玉が５－０でリード。徐々に10番畠中のステップシュートをきっかけにペースを取り戻した愛知だが埼玉は速攻を軸に攻撃の手を緩めず差は縮まらない。前半は15－８で埼玉リード。後半に入り、愛知は流れの中からのロング、ステップシュートで得点を重ねるものの、埼玉も負けずに相手の隙をついて速攻で応戦。結局、愛知の粘る追い上げも虚しく31－20で埼玉が勝利を収めた。



（山本悠）

■決　勝

広　　島 27 (12－9 / 15－13) 22 三　　重

（戦評）両チーム終始７人一体となる素晴らしい攻防で緊張が続く。特に注目すべきは両ＧＫの好セーブで、互いに点を許さずゲームは苦しい展開になる。また、ミスが確実に点につながり、非常にハイレベルな試合を見せる。前半中盤以降、広島がわずかな隙をついて12－９とややリードして後半に持ち込む。後半、三重は点差を縮めたが、退場が続き苦しい展開となる。広島のＧＫ松村の好プレーとチーム全体の好雰囲気により、27－22で広島が勝利を収めた。

（片山萌）

【成年女子】

山梨県（シャトレーゼ）が13年ぶり２度目の優勝

成年女子は、各ブロック代表24チームで戦われた。１回戦は、来年の国体を控える静岡県、大型選手の谷口を擁する福井県、東京女子体育大学、国士舘大学、日本体育大学の選手を中心とした学生主体の東京都、香川銀行の香川県、日立栃木のＯＧの栃木県などが順当に勝ち上がった。なお、奈良県対高知県の試合は、天皇皇后両陛下をお迎えした天覧試合となった。

２回戦では波乱が起きた。広島メイプルレッズの広島県が、東京都の速攻で前半６－12とビハインドを許し、後半も追いつくことができずに16－21で姿を消した。また、昨年４位入賞した宮城県ではあったが、多くのメンバーが入れ替わり、初戦で姿を消すこととなった。

３回戦では、日本リーグチームが順当に勝ちあがった。注目は、シャトレーゼの山梨県対筑波大学と茨城大学の選手を中心に組まれた茨城県、ＨＣ名古屋の愛知県対北国銀行の石川県であった。

山梨県対茨城県は、山梨県が速攻や７ｍＴで常にリードし、茨城県も終盤粘りを見せたが、結局28－18で山梨県が勝利した。石川県対愛知県は、序盤１点を争う激しい攻防で展開された。両チームとも退場者を出すが、石川県はＧＫの好守で踏ん張ったのに対し、愛知県はディフェンスのミスから７ｍＴを与えリードを許すこととなった。後半も流れは変わらず23－17で石川県が勝利した。

ベスト４は、香川県を破った東京都が進出し、オムロンの熊本県、シャトレーゼの山梨県、北國銀行の石川県となった。

■準決勝

熊　　本 24 (9－6 / 10－13 / (延長) / 3－2 / 2－2) 23 東　　京

（戦評）熊本・冨田の先制で試合開始。両者一歩も引かない試合展開となる。前半24分、審判のジャッジに抗議した熊本チームはコート内の選手が全員コートの外に出てしまい試合が一時中断するという一幕もあったものの、それから熊本は一層波に乗り、東京・岡崎の退場もあって４点を連取、９－６とリードする。後半に入っても熊本の勢いは止まらず、ＧＫ吉田の好守によりリードを広げる。後半７分と８分、熊本・安心院、藤長の退場をきっかけに東京は２点を返し、リズムをつかむ。追い上げる東京は後半16分、７ｍＴで逆転に成功。しかし、くらいつく熊本はさらに同点に追いつく。接戦につぐ接戦で延長戦にもつれこむ。熊

本ＧＫ吉田の好守が光り、熊本が熱戦を制し、決勝への切符を手にした。（松永）

山梨	25	11－15	22	石川
		14－7		

（戦評）前半、山梨は早船の華麗なフェイントからのシュートで先制するが、石川がディフェンスの隙をついた攻撃で常にリードする。山梨もフェイントで相手の堅いディフェンスを突破し、４点差を縮めようとする。後半開始５分、山梨が４点連続得点し、同点となる。その後両チームとも堅い守りと堅実な攻撃で１点を争う展開に。終盤まで速攻で点を取り合うが、稲吉、早船両選手を中心とした得点で波に乗った山梨がリードを守り切った。（市川）

■３位決定戦

石川	25	15－8	21	東京
		10－13		

（戦評）東京が先制したものの、前半５分、ミスが続く東京は石川に逆転される。その後、しばらくは１点ビハインドの試合展開となるが、徐々にリズムをつかみ出した石川は前半13分、東京・植田の退場等により９－５とリードを広げる。石川ＧＫ田中・宮西両選手の好守が光り、前半を15－８で折り返す。後半に入ってからは、わずかに東京のペースとなるものの、前半の点差を取り返すことはできない。後半23分、徐々にミスが目立ち始めた石川は東京に２点差まで追い上げられる。しかし、粘る石川は速攻が決まりだし、徐々にリードを広げていく。結局、石川が25－21で勝利を収めた。（松永）

■決　勝

山梨	29	12－9	18	熊本
		17－9		



（戦評）前半開始早々、熊本・安心院が先制点をあげ、その後続々と熊本が得点する。山梨も速攻のチャンスを得点につなげ、やや焦りの見えてきた熊本の隙をついた速攻で17分に逆転する。終盤は堅い守り、好セーブに阻まれ両チームとも得点できない状態が続き、山梨のリードで前半終了。後半、波に乗った山梨は稲吉を中心に続々と得点し、ポストの藤浦をからめた攻撃で10点差まで差を広げる。熊本も思い切ったシュートでゴールを狙うが、山梨の勢いを止めることはできず、29－18で山梨が勝利を収めた。（市川）

【少年男子】

宮崎県が初優勝

少年男子は24チームの参加で争われた。注目は富山の高

校３冠がなるかであったが、惜しくも準決勝で神奈川県に敗れた。

１回戦では、まず沖縄県対茨城県が注目された。両県とも全国大会での上位常連であり、優勝の行方も左右するのではないかという一戦であった。この戦い、前半は両チームともシュートを多く打つも、ＧＫの好セーブで得点をあげられず、９－８の沖縄県リードで折り返した。後半、沖縄県は村山、銘刈を中心に得点をあげ、茨城県は堅い守りからの速攻で得点をあげた。一進一退の攻防が続き、最後まで緊迫した試合だったが、数少ないチャンスを確実にものにした沖縄が接戦を制した。

このほかでは、福岡県、山梨県、大分県、大阪府、愛知県などの強豪県が２回戦に進出した。

２回戦では、シードチームが登場し順調に３回戦へと駒を進めるなか、福井県は、立ち上がりの調子の悪さから一時点差を広げられ、後半踏ん張るものの立ち上がりの悪さが響き、２回戦で姿を消した。

３回戦では、神奈川県対山梨県の関東同士の戦いと、香川県対京都府の試合が好ゲームとなった。神奈川県対山梨県の戦いは、立ち上がり神奈川県はポストを使ったカットインや、隙間を突いた攻撃で点を重ねていった。一方山梨県は、武井・永田を中心にした攻撃や、水野の７ｍＴで差を詰めていき、前半を10－８の神奈川県リードで折り返した。後半山梨県の水野が確実にシュートを決め、22分同点に追いつく。その後は一進一退の攻防を見せたが、神奈川県のノータイムフリースローが決まり、劇的な幕切れとなった。

香川県対京都府の戦いは、前半開始早々お互いに速攻などで早い試合展開となるが、ＧＫの好セーブなどでロースコアーに留まった。中盤に入り、京都府がリードを奪ったが、香川もポストプレーなどで徐々に追いつき一時逆転もしたが、結局同点で折り返した。後半も序盤は膠着状態が続いたが、先にリードを掴んだのは京都府であった。しかし、香川も守って速攻の形で次第に追いあげ、そのまま流れを取り戻し逆転する。京都も最後まで食らいついたが一歩及ばず21－20で香川県が勝利をものにした。

■準決勝

神奈川 32 (17－19 / 15－12) 31 富山

（戦評）立ち上がり、ミスの続いた神奈川だったが、すぐに持ち直し、クロスを多用した攻めで得点する。対する富山は５番松田のキレのいいフェイントからの攻めで、３番石戸が連続得点で対抗。両者一歩も譲らなかったが、19－17と富山のわずかなリードで後半へ。後半も前半同様、互角の戦いが続いたが、８番賀川がサイドシュートと速攻を連続して決めた神奈川が23分に逆転。富山も11番海道の連続得点で再びリードを奪おうとするものの、波に乗った神奈川ＧＫ山崎の好セーブに阻まれ、32－31で逃げ切った神奈川が決勝への切符を手にした。（吉良和恵）

宮崎 21 (８－７ / 13－10) 17 香川

（戦評）試合序盤から両チーム堅守を見せ、互いに流れを掴ませない。両チームリードは許しても決して離さないこう着状態が続き、宮崎の１点リードで前半を折り返す。後

半に入り、宮崎が10番上田を中心に流れを掴んだかに思えたが、香川も11番奴賀などが得点を重ねて点差を詰める。しかし、7mTなどのチャンスを確実にものにした宮崎が21－17で勝利した。(大西健太)

■3位決定戦

富山 21（12－8 / 9－11）19 香川



(戦評) 試合開始早々、香川・熊野が連続得点をあげ流れを掴むかに見えたが、富山の守りも甘くはなく、続けて得点することはできず波に乗り切れなかった。香川がGK出戸に苦戦している間に、富山は7mTを確実に決めたり、石戸のロングシュートを中心に得点を重ね、一歩リードした。香川も大西を中心にポスト熊野を使ったりと粘り強い攻撃を見せる。後半終了5分前、富山・2人の退場を機に、香川はGK坂本の好セーブに助けられ猛反撃をするが、2点差まで詰め寄ったときに試合終了のブザーが鳴り、富山が逃げ切った。(河田好未)

■決　勝

宮崎 23（13－11 / 10－11）22 神奈川

(戦評) 試合開始早々、神奈川のセットが立て続けに決まり3点連取した。このまま波に乗るかと思われたが、宮崎の堅い守りが徐々に調子を上げ、互いに点の取れない状態が続いた。しかし宮崎が上田を中心に速攻やロングで点を決め、逆転に成功し13－11で前半を終えた。後半、神奈川は一時5点差まで広げられたが、GK山崎の好セーブや速攻で追い上げた。しかし宮崎はチャンスを確実に得点につなげ、神奈川の追い上げを振り切り優勝し、インターハイの雪辱を果たした。(宮北かおり)

【少年女子】

沖縄県が2年連続3回目の優勝を飾る

少年女子は16チームの参加で、行われた。少年女子は、今年の全国大会上位の4チームが前評判通り強さを見せた。ベスト4までは波乱無くこの4チームが勝ちあがった。準優勝の愛知県は主力を故障で欠きながらも決勝まで勝ち進み、愛知県の総合優勝に貢献した。

■準決勝

沖縄 22（11－14 / 11－7）21 京都

(戦評) 沖縄の先制で試合開始。しかし京都が速いパス回しと速攻で逆転する。それに対して沖縄は巧みなフェイントとクロスで京都の堅いディフェンスをかわし得点を重ねる。また、時折ダブルポストの連繋プレーを見せた。前半は14－11で京都リードで折り返す。後半も京都ペースだったものの開始10分で京都・上村が負傷退場したせいか、沖縄が押し始め逆転。京都も一時はペースを取り戻したものの、結局22－21で沖縄が逃げ切った。(岡田朋香)

愛知 25（7－10 / 18－10）20 兵庫

(戦評) 両チームともに互いの好守に阻まれ、ミスもあり、なかなか点が決まらない。兵庫は市村を中心にセットプレーで攻撃し、愛知は相手のミスからの速攻で応戦した。互いに一歩も譲らず前半は10－7と兵庫のリードで終了した。後半、序盤は前半と同じ展開が続いたが、中盤、愛知が速攻で3連取し、そのまま波に乗り逆転した。愛知の勢いは止まらず、冷静さを欠いた兵庫はミスが続き、結局25－20

で愛知が勝利を収めた。（宮北かおり）

■3位決定戦

京　都 20（9－11 / 11－6）17 兵　庫



（戦評）前半開始直後に兵庫が先制すると、京都も速攻で得点を返し、一進一退の試合展開となる。京都は8番藤原へのマークが厳しく攻めに苦しむが、佐野がフェイントを生かして攻め、平尾のサイドシュート等で得点を重ねる。兵庫は市村・細木を中心に攻撃を組み立て、前半終了間際、市村の威力あるシュートで11－9とし兵庫リードで折り返す。後半、京都がポストを絡めた攻撃で兵庫ディフェンスを崩し逆転に成功。兵庫もパスをつないで3連続得点する等追い上げるが、あと一歩及ばず、20－17で京都が勝利を収めた。（高浜沙織）

■決　勝

沖　縄 35（15－15 / 20－12）27 愛　知

（戦評）序盤は沖縄が5番東濱のロングシュートなどで点差をつけたが、愛知もカットインやポストシュートなどで粘る。中盤に入ると流れが愛知に傾き、3番樋口の攻撃や10番樹山の4連続得点で逆転する。対する沖縄も11番仲宗根のシュートで対抗、前半は15－15の同点に終わる。後半開始早々、点の取り合いになり、互いに一歩も引かない状況になる。中盤まで状況は変わらず、終盤に入り主導権を握ったのは沖縄だった。速攻で一気に差を広げ、一時9点差まで持っていく。愛知も最後まで踏ん張ったが、流れを変えるには及ばず、4日間に及んだ激闘は沖縄の優勝で幕を閉じた。（前田秀樹）

国体アラカルト

池田鉄哉氏東京都成年女子監督で復活

東京都成年女子チームは、よさこい高知国体で久々に4位に入賞した。この影に池田鉄哉氏の存在がある。オールドファンならよくご存知のはずであるが、日本ビクターの監督として全日本総合4回、国体5回、日本リーグ2回の優勝を成し遂げている名監督である。

池田氏は芝浦工業大学時代から、ナショナル選手としてご活躍なされた名選手でもある。また、ご夫人もナショナル選手としてご活躍なされており、ハンドボール界ではおしどり夫婦としてマスコミにも取り上げられた。

日本ビクターの廃部と共にハンドボールから少し遠ざかれましたが、今年の関東学生プレーシーズンマッチで技術指導会の講師を勤められている。（機関誌430号既報）まだお年は61歳とのこと、今後益々若い人の指導をして頂き、ご活躍を期待したい。

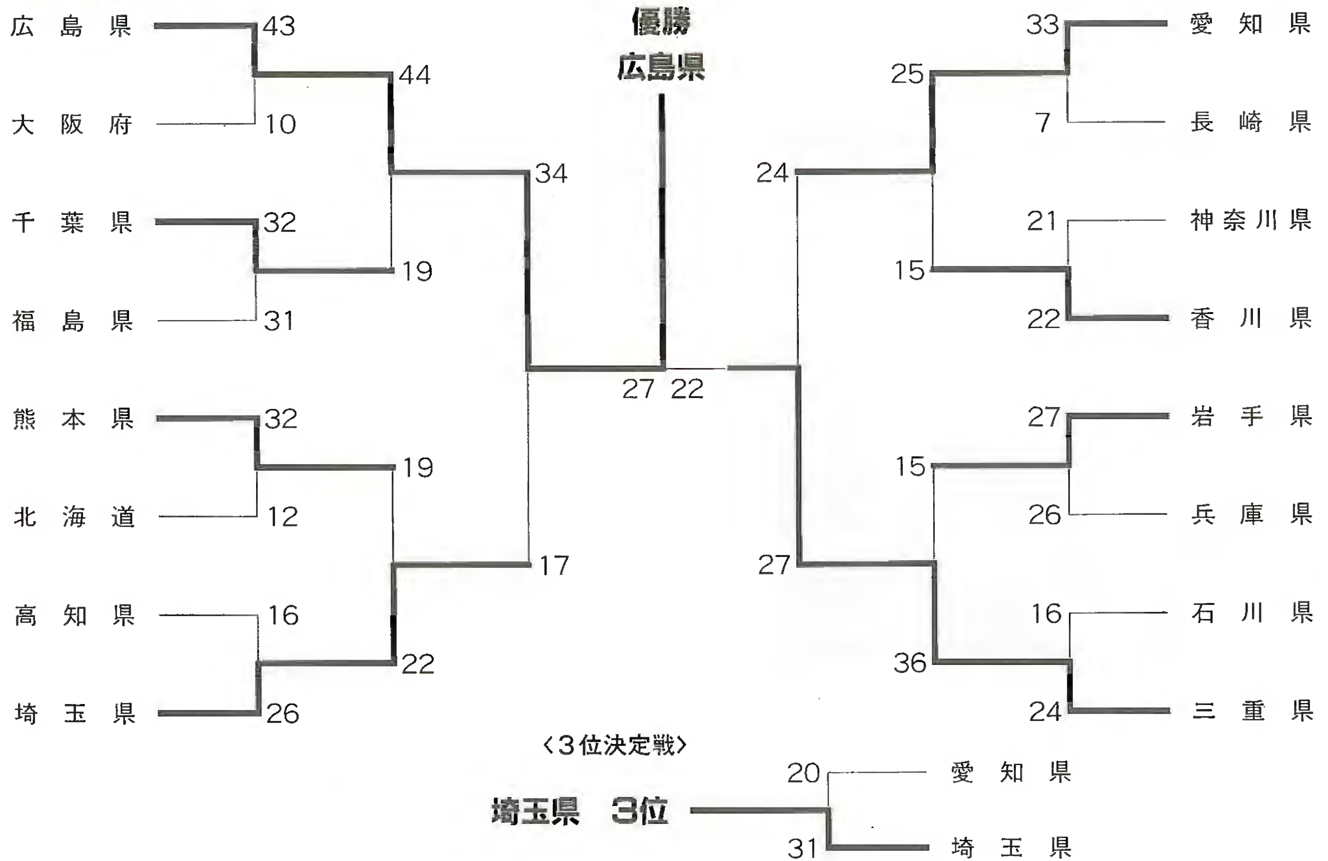


池田鉄哉氏

第57回国民体育大会 ハンドボール競技会・結果

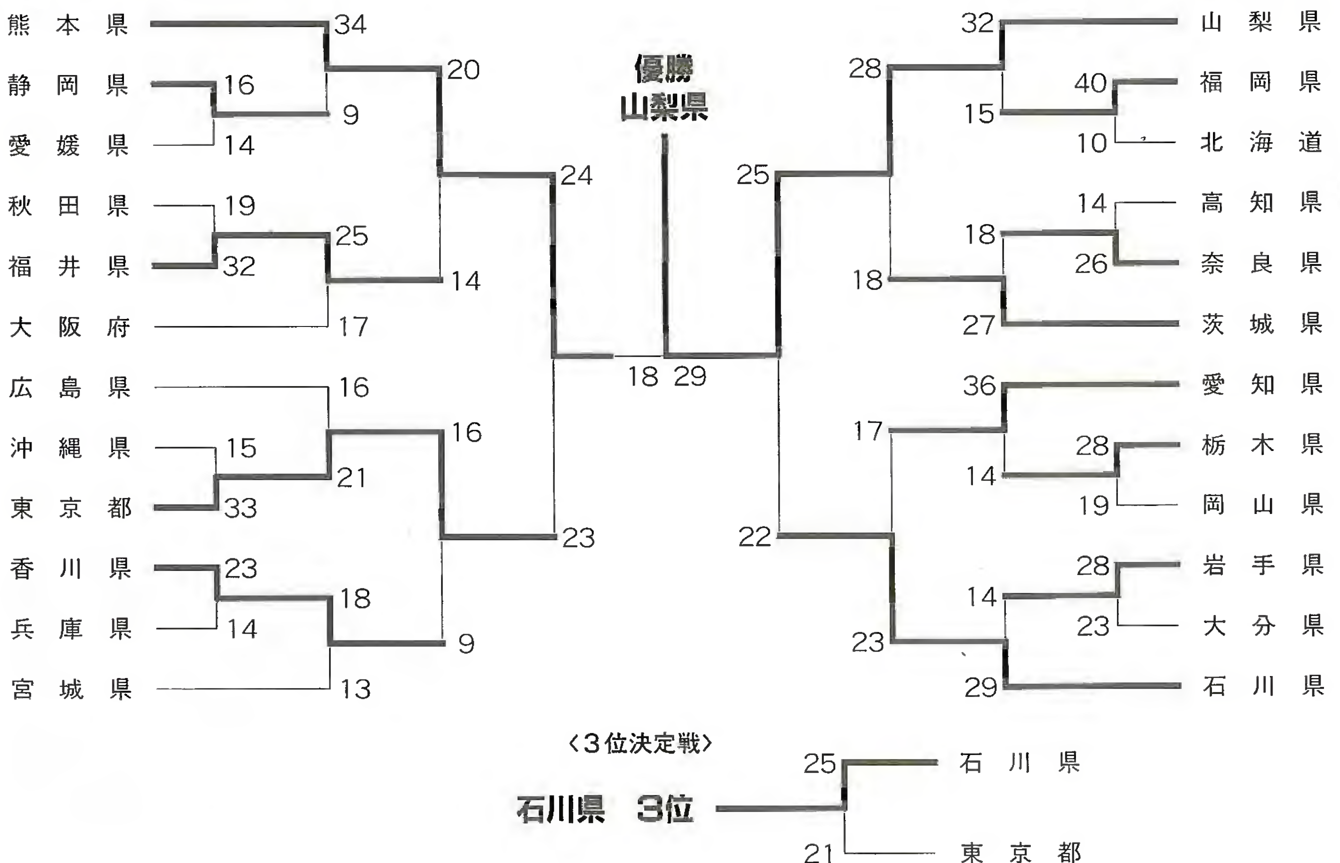
《成年男子》

2002年10月28日～31日



《成年女子》

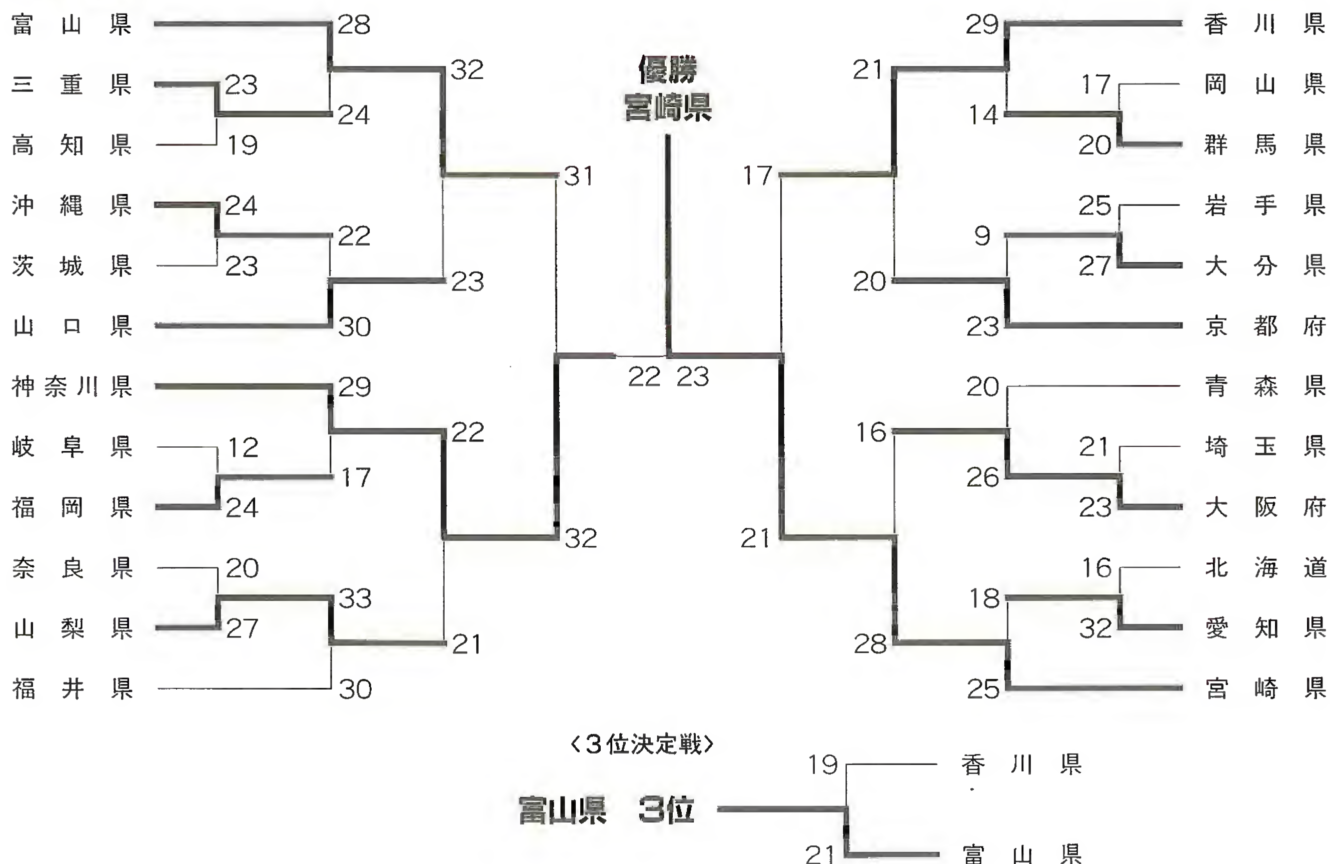
2002年10月27日～31日



第57回国民体育大会 ハンドボール競技会・結果

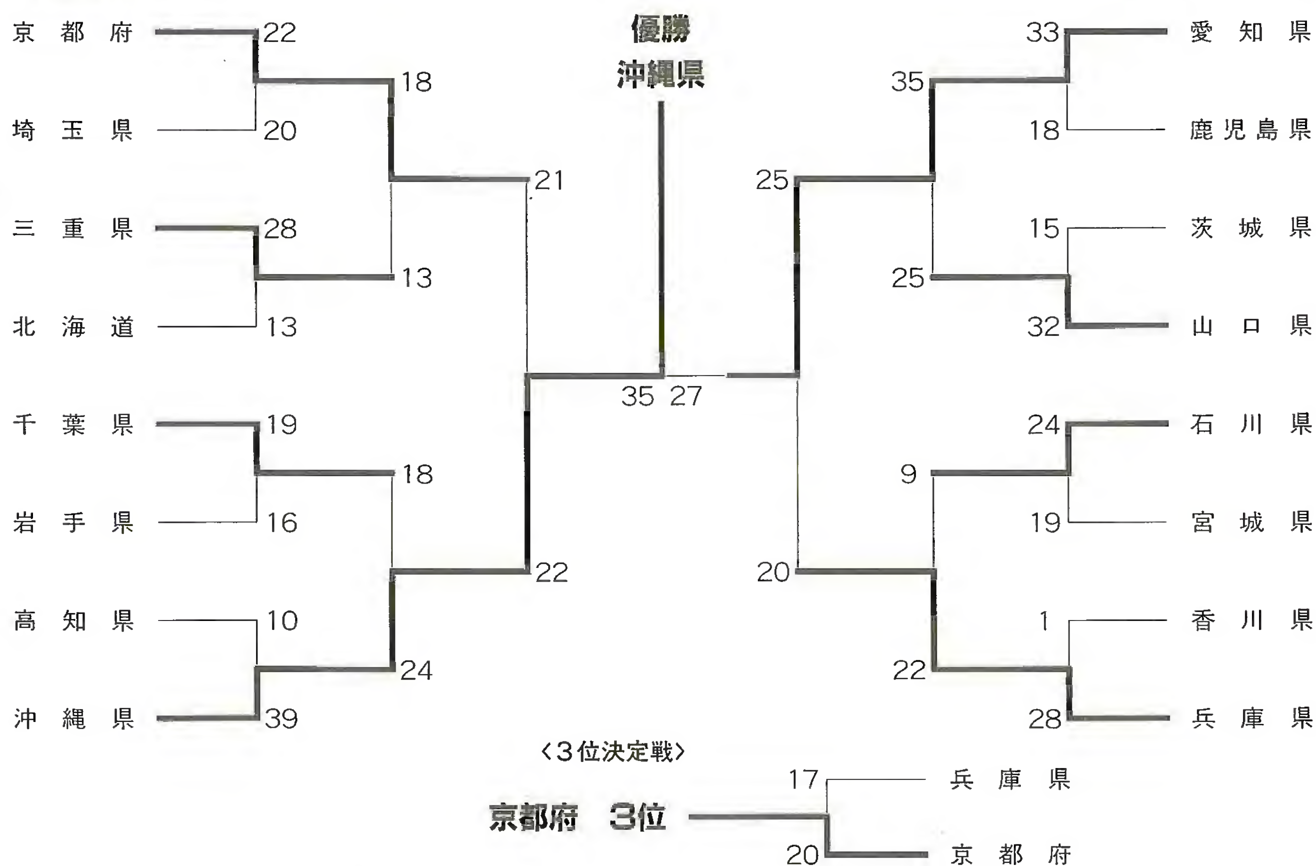
〈少年男子〉

2002年10月27日～31日



〈少年女子〉

2002年10月27日～30日



★★アジア大会詳報★★

第14回プサン アジア大会報告

強化委員長 **緒方 嗣雄**

✲全体報告✲

9月25日㈬日本選手団の結団式に続いて、ハンドボール協会による男女代表選手の壮行会が行われた。日本ハンドボール協会の大西専務理事より、選手・役員一丸となってメダル獲得に全力を注ぐよう激励があり、また、日本選手団総監督の松永怜一氏も壮行会に駆けつけて頂き、球技種目の奮闘を期待する激励を受け、選手一人一人も必勝を誓いメダル獲得に闘志を燃やしました。

9月27日㈮選手村に入り、現地での調整トレーニング、開会式の参加と男女それぞれの調整を行い9月30日㈪、男子予選リーグより熱戦の火蓋が切られ開幕した。

男子は緒戦の中国戦全員一丸となって30対15のダブルスコアーでの快勝、続く2戦のバーレーン、3戦モンゴルには、全くのスキを与えず完勝、予選最終戦の前日の調整トレーニング中の最後、今回絶好調の宮崎選手が足首骨折のアクシデントに見舞われる。韓国戦では、選手の気負い、対韓国の意識過剰からかミスの連発、池辺選手のレッドカード失格を機に逆転されそのままズルズルと点差を離された。予選A組の結果2位となり、準決勝はB組1位のクウェートと対戦。一試合出場停止のDFの要、池辺選手を欠いてのスタート、高いDFラインで、日本の動きを押さえ着実に加点され必死に追い上げるも3点差の敗退。3位決定戦のカタール戦も基本的なミスを犯し簡単に主導権を渡す、試合途中の棄権覚悟で臨んだが、意識過剰が仇になり点差が開く一方で自滅した。アジア大会、初めてメダルを手にする事が出来なかった。

女子は5チームの参加となり、総当たりのリーグ戦となった。緒戦の韓国戦は、堅さが見られたもののGK山下選手の好セーブに乗りリードするも、7mTを外して韓国にスキを与えてしまった。その後何度か迫って行くが韓国に突き放されてしまった。2戦目の北朝鮮戦、一進一退が続いたが、スピードがやや欠ける北朝鮮に点差を広げる事が出来ず追いつかれ引き分けとなる。大事なところで7mTを2本外したのが大きく影響した。第3戦カザフスタン、7月のアジア選手権では接戦の末敗れ、今回のリベンジとなったが、大きな体格を武器に日本のDFを崩される。日本も、早いボール展開からシュートを打つが、GKにことごとく好補され前半で勝負をつけられた。後半積極的に粘って戦ったが、前半の点差が余りにも大きかった。

最終戦の中国戦では、初勝利を目指し、田中選手、山田選手が果敢に攻めリードするが、中国も多彩な攻撃を見せ、2点ビハインドで前半終了。後半に入り、積極的なDFでリズムをつかみ、終了間際佐久川選手のサイドシュートで1点リードするが、中国の攻撃の粘りで、7mTを決められ同点の引き分けとなった。

北朝鮮、中国と引き分けにより2分2敗で4位となりメダルを逃した。一瞬のミス、大事な場面の7mTの失敗が試合を左右し残念な結果に終わった。

男女共にメダルなしという結果に終わり、日本チームは、大変厳しい現状を突き付けられた。このままでは引き下がれない現実の分析を十分に行い、来年のオリンピックアジア予選では、必ず結果を出します。

アジア大会の試合を通じて、オフィシャル、審判について数多くの疑問点、疑惑を感じた。負け犬の遠吠えになりますが、あえてアジアの正常化を唱え、選手の力が、正しい方向で評価される事を祈りアジア大会の報告とさせて頂きます。

4月よりこの大会を目指し強化し、快く代表選手を送り出し協力頂きましたチーム関係者に厚くお礼申し上げます。また、プサンまで応援に来て頂いたチーム皆様、父兄、サポーターの方々には心からお礼申し上げます。

✲大会総括✲

今年行われたアジア選手権兼世界選手権予選に於いて、男子は6位、女子は4位と過去最低の成績であった。

このアジア大会は、重要な大会となる。前回と同じ成績男女3位以上を目標にし、また、このアジア大会は、アテネ・オリンピックを目指す中間点として捉え、アテネに繋がる戦いが出来るかどうかの見極めにも重点をおいた。

その中でも順位も前回の成績を下回らない事を条件に大会に臨んだ。

■14年度選手選考に関して（アジア大会も目標に入れて）

【男 子】

当初30人の代表候補選手を選びこの中より合宿、遠征、大会の度に16～19名を選考して参加した。

アジア大会を前にしたドイツ遠征より1名の選手が、プロを全面に出しケガ等の保証問題で参加を断念した。

ケガ等で戦列を離れていた選手も多くいたが、何名かの選手が復帰した、最終的には選手構成に大きな問題はなかった。

【女 子】

代表に選考するも、学生とリーグチームとのスケジュールが合わず合宿参加が困難となりおのずと大会の参加も出来無くなった。（大会だけの参加は女子チーム特有の部分で参加は難しい）

選手層が薄い。

①リーグチームが少なくなった

②リーグチームで選手育成の時間が無い

③高校生の優秀選手は殆ど進学

④サイドのスペシャリスト不足(アジア選手権の反省)

ベテラン選手が多いが現状のベストメンバーである。

■大会までのスケジュール(合宿・遠征ほか)　　14年度

合宿回数：男子５回女子６回

遠征回数：男子２回（フランス、ドイツ）

女子１回（チェコ）

親善試合：男子２回（アジアサーキット、スーパーチャレンジ）女子１回（広島国際）

アジア選手権女子（カザフスタン）　７／25～８／２

４月より９月まで代表チーム強化シーズンであったが、９月11日～９月15日まで実業団選手権があり、大会直前の大事な時期のため少しは影響した(選手の疲労蓄積)。今後のスケジュールには十分検討する必要がある。

■フイットネス

【男　子】

体格・体力

・体格ではアジアの中でも引けを取らないがパワー及び瞬間パワーは劣る。

・体格をカバーするため体力アップを図りスタミナをつける。

・大型選手は防御専門で攻撃で生かし切れない。

精神力

・ナショナリズムに欠け、代表選手の自覚、信念を持って戦っていない。

・瞬時の判断力に劣る。

・精神的タフネスさに欠ける。

・代表選手としての自覚欠如→社会人としての人格形成とマナー教育。

・わがまま→連携プレーに対する考えの甘さ判断力の甘さ。

・プレーの図々しさに欠ける。

技術力

・高度なテクニックを持っているが基本技術プレーにいい加減である。

・テクニックが幅広くて浅い、スペシャリストでない。

・強弱のプレーが少ない（浮かしのシュートでなく）常に力が入っている。

・情報量は多いが戦術に生かせて無い。

男子チーム再建策案

大型選手の基本技術の向上（攻撃力）中型選手のスピードアップ、スペシャリストの養成、新ルールに対応出来る体力（速攻、逆速攻に耐え得る総力）どん底まで落とし込んでのハードなトレーニングを重ね精神的にタフな選手の育成。

防御・攻撃の両方のできるオールラウンドプレーヤーの育成、選手交替は攻撃、防御の交替ではなく、パワー前回の起用方法を戦術にする。

【女　子】

体格・体力

・カザフスタンを筆頭に中国、韓国の３チームは体格的にも恵まれ、パワーをも備えている。体力的には北朝鮮が強い。若干大きめの選手がＤＦするもののＯＦでは、期待出来ず、交替しスピードを身上とした日本独自の速攻に結びつかない。

・体格の向上は望めないが体力の向上はトレーニングにより期待出来る。

・防御スタイルの多様化と、攻防の切り替えのスピード化。

精神力

・非常に弱くタフネスさに欠ける。

・ナショナリズムに欠ける。←代表選手の自覚に欠ける。

・自分の環境に立ち向かうハングリー精神に欠ける。

・修羅場を経験していない。→苦しい場面で逃げる。

技術力

・サイドプレーヤーのスペシャリストが少ない。

・基本プレーが雑→パスがシュートでシュートがパス。

・パワーの備わった技術力。

女子チーム再建策案

以上の反省から見ると全ての点で劣っている現状である。体格面も大きく変わる事は望めない。体力の倍増、精神力の向上、技術力のアップして芯の強いチームは一夜漬けでは出来ない。長期合宿を行い、寝食をともにしながら、強い代表チームの色に染めて行かないとチームは変わらない。チームの色を作るためには十分な時間が必要である。

■チーム戦術（戦いに関して）

【男　子】

緒戦の中国、続くバーレーン戦はＧＫを中心としたＤＦが良く安定した得点をあげることが出来た。各々の持ち味

が十分発揮された。今大会で活躍していた宮崎選手がケガしてから攻撃の歯車が狂いだし攻守のバランスを乱した。韓国戦ではＤＦの要池辺選手にレッドカードまで出てしまった。準決勝のクウェート戦、３位決定戦（カタール）と個人の基本的なミスが目立ち、チームとしてのバランスを崩していた。

日本チームの勝利のパターンは、堅い守りで相手に攻撃リズムを与えず、ボールを持ってから得点するまでが早い。その反対にＤＦが安定しないと、ＯＦでは、個人ミスが多くなりチーム力が全く失われる。一つのミスでチームの戦意意欲を無くしている。

３位決定戦、審判の判定が偏り納得できない時は、選手を引き上げ、中途棄権をして抗議をすることも決定して試合に臨んだが、チーム、選手の意気込みも盛り上がることなく大会を終了した。

【女　子】

韓国との緒戦、堅さはあったものの前半互角の勝負、後半立ち上がり３連続得点されそのまま力つきる。引き分けた２戦目の北朝鮮、中国戦は勝ちパターンであったが、簡単に７ｍＴ、ノーマークシュートを外し、大きくリードする場面で点差を離せず引き分けられた。

監督は、選手を信頼してコートに送り出すが、自信を持ってプレーが出来なかったり、ミスを連発して自分を見失う選手がいた。このような選手をカバーする選手がでて来ないのが今のチームの現状か、監督、選手のナショナルマッチの経験不足である。

■アジア連盟の大会管理と運営

中東中心の大会運営が見え見えである。

アジア大会女子の試合はカザフスタンよりの笛が多い（中央アジアを中東の一員に入れるか為か）。

男子については、クウェート、カタールが中心となりすべて中東（クウェート）の声が掛かった笛となっている。

予選最終戦（日本対韓国）、敗れたチームの次の対戦はクウェートであったが、この試合のレフェリーをクウェートが担当。戦い易い日本を選び、ＤＦの要・池辺選手にレッドカードを出し異議を申し立て１試合出場停止（この裁定委員会で日本、クウェートのメンバーを外し判決の結果２対２となり、後日、評議委員会にて決定。その期間丸２日、３日目の朝、つまり試合当日１試合出場停止が確定）。日本選手団より抗議文を出した。

１回目、レッドカードに対して、いろいろな噂が流れているので、早く判定して知らせてほしい。２回目１試合出場停止の連絡が遅いのはチームの混乱を起こすための判定としか思えない。

この大会のテクニカルチーフは、（日本の渡辺副会長は事前会議出席も大会は欠席のため）中東のスタッフに思い通りのリードされてしまった。

同じレッドカードでも審判及びオフィシャルより意見書が提出されないと裁定委員会は開かれない。今回の裁定委員会は２回（台北の譚選手）であった。

決勝戦の韓国対クウェート戦、イランの審判。クウェート寄りの笛を吹いて試合は互角の展開、観客席よりペットボトルが投げ込まれ騒然となり、試合は一時中断、警官隊に取り囲まれたコートで試合再開、さすがの審判も互角の笛となり観客席も平穏となり韓国の勝利。現実にこの様な光景を目の当たりにして、これがスポーツなのか、口では試合は戦争だと選手を励ますが、正に現実か、単なる審判の疑惑か？　正常化された試合が行われる事を望みたいものである。

今年開催されたアジアでの大会、２月・アジア選手権（イラン）、８月・ジュニアアジア選手権（バンコク）、10月・アジア大会（プサン）、すべての大会に於いて何らかの疑惑があり、それぞれに選手、チームにて色々な方法で抗議をして来たがＡＨＦ（中東）は変わらないのが現状である。

アジアの正常化を目指して、東アジア連盟の結成を始め色々な動きが起きており一日も早く真のスポーツが出来ることを望み、来年のオリンピックアジア予選を目指したい。

正常なアジア予選を開催の為に、

①ＩＨＦの立ち会い

②ヨーロッパより審判の招聘（２ペア以上）

③オフィシャルを中東だけに任せないこと

以上３項目は最低条件でありこれを受け入れないと日本開催を返上する覚悟で、今後の交渉に臨んで頂きたい。

✲試合結果✲

⊙男　子

■ 第1戦（9月30日）

日本	30	14－8 16－7	15	中国

〔戦　評〕前号掲載

■ **第2戦（10月2日）**

日本	35	17－11 18－13	24	バーレーン

〔戦　評〕前号掲載

■ **第3戦（10月4日）**

日本	52	26－3 26－3	6	モンゴル

〔戦　評〕前号掲載

■ **第4戦（10月8日）**

日本	17	7－10 10－14	24	韓国

〔戦　評〕予選リーグA組の首位をかけた一戦。立ち上がり、日本は池辺、羽賀の積極的なディフェンスで韓国の攻撃を守り、中川のカットインシュート、下川の速攻などでリードする。しかし、韓国も尹、白のコンビでリードを縮め、池辺のレッドカード退場を機会に逆転に成功する。結局３点ビハインドで前半を折り返す。後半に入り、３点差を追う日本は、あせりからかイージーミスを連発、逆に韓国にリードを広げられてしまう。日本も最後まで諦めずに攻めたが、点差は縮まらず７点差で涙を飲んだ。この結果、Aグループ２位となり、11日にBグループの１位と対戦する事となった。（玉村健次）

〔得点者〕中川７、古家３、山口２、内田１、角谷１、池辺１、下川１、羽賀１

■ **第5戦（10月11日）**

日本	24	12－14 12－13	27	クウェート

〔戦　評〕日本は立ち上がり動きが悪く、簡単にクウェートにリードを許してしまい主導権を握られてしまう。しかし、日本も持ち直し茅場のミドル、下川の速攻で追い上げ、前半を２点ビハインドで折り返す。後半に入っても状態は変わらず、２～３点差のまま試合は進んだが、クウェートの高いディフェンスに苦しみ得点出来ず、点差を縮める事が出来なかった。終盤、佐々木の速攻からのミドルシュート、田場の７ｍＴで追いすがるもののクウェートの粘りにあい、結局追いつく事が出来なかった。この結果、日本は３位決定戦（ＶＳカタール）と戦う事となった。（玉村健次）

■ **第6戦（10月13日）**

日本	21	7－14 14－14	28	カタール

〔戦　評〕立ち上がりからミスが続き、カタールに主導権を簡単に明け渡す。日本はレフェリーのジャッジに対し、神経質になり過ぎプレーに精彩を欠き、前半を７点ビハインドで折り返す。後半15分過ぎには最大９点リードされる。日本はディフェンス体型を変え、相手の攻撃をかく乱にかかるが、９点差はあまりにも重く、逆にあせりからシュートミスを連発してしまい追いつく事が出来ぬまま結局７点差でゲームセットとなりメダルを逃した。（玉村健次）

〔得点者〕茅場７、下川３、古家３、松林２、内田２、池辺１、角谷１、中川１、佐々木１

■ **決　勝**

韓国	22	13－11 9－10	21	クウェート

■ **3位決定戦**

カタール	28	14－7 14－14	21	日本

■ **5位決定戦**

台湾	35	14－9 13－18 (延長) 8－6	33	バーレーン

■ **7位決定戦**

中国	35	18－10 17－17	27	UAE

【最終順位】

1位	韓国	6位	バーレーン
2位	クウェート	7位	中国
3位	カタール	8位	UAE
4位	**日本**	9位	モンゴル
5位	台湾		

⊙女子

■ **第1戦（10月1日）**

日本	21	12－13 9－15	28	韓国

〔戦　評〕前号掲載

■ **第2戦（10月3日）**

日本	26	14－12 12－14	26	北朝鮮

〔戦　評〕前号掲載

■ **第3戦（10月7日）**

日本	20	8－18 12－14	32	カザフスタン

〔戦　評〕前号掲載

■ **第4戦（10月9日）**

日本	23	9－11 14－12	23	中国

〔戦　評〕女子リーグ最終戦で今大会初勝利を目指す日本は、立ち上がりから田中(美)、山田のフローターコンビが積極的に攻め、中国をリードする。しかし、中国も強力なフローター陣で負けずに追いつく展開となる。結局前半は中国が２点リードして終わる。後半に入り、日本は河本、青戸の積極的ディフェンスが機能し、中国フローター陣をかく乱する事に成功する。その後、一進一退の攻防が続いたが、残り３分、佐久川のサイドシュートで１点リードする。しかし、中国も粘り、７ｍＴで追いつき再び同点となる。その後、両チームとも攻防を繰り広げるが決定打がなく引き分けに終わった。（玉村健次）

〔得点者〕田中（美）７、山田７、佐久川４、金城２、青戸２、藤浦１

【最終順位】

1位	韓国	**4位**	**日本**
2位	カザフスタン	5位	朝鮮民主主義人民共和国
3位	中国		

第54回全日本総合ハンドボール選手権大会展望
新方式で、好ゲーム続出か

第54回全日本総合選手権大会は、12月10日(火)から14日(土)まで、愛知県名古屋市の枇杷島スポーツセンター、中村スポーツセンターで開催される。今年度は、世界選手権の影響もなく、男女同時開催となる。

今回の最大の注目は、新しくとられたトーナメント方式であろう。組み合わせ表を見て頂ければ一目瞭然であろうが、各大会を勝ち抜いてきたチーム同士で一回戦を戦い、それを日本リーグチームが待ち受けるといった構図である。従来は、一回戦から日本リーグ勢とあたり、ややもすれば大味な試合が展開されていた。今回は、一回戦から緊迫した接戦が多く展開されるものと予想される。

出場チームは、男子が16チームである。日本リーグ一部の8チームに、ジャパンオープンから、香川クラブ(1位)と大同クラブ(2位)。続いてはインカレの1位と2位のチーム。学生代表は11月17日のインカレ終了を待たなければならない。これに、日本協会推薦として日本リーグ2部の北陸電力、インテックス21、豊田合成、ジャパンオープン3位のHC岡山が出場する。

女子の部は、日本リーグからの撤退が相次ぎ日本リーグから6チームの参加と寂しい状況である。これにジャパンーオープンから三重バイオレット・アイリス（1位)、御座候(2位)。続いて男子同様インカレの1位と2位のチームが加わる。これも男子同様インカレの結果を待たなければならない。日本協会推薦としては、ジャパンオープン3位、4位のかながわガビアーノと香川銀行T・Hが出場する。

✻ 大会の見所 ✻

男子の部

男子の部は、大同特殊鋼の4連覇なるかであろう。日本リーグでは、ここのところホンダが4連覇を果たしている。全日本総合の大同、リーグのホンダといった構図である。トーナメント形式に強い大同といったところだが、今年の実業団選手権では、決勝リーグで一引き分けするも優勝をさらうといった強みも見せている。また開催地は、愛知県名古屋市で、大同特殊鋼の地元。応援の後押しもありかなりの期待が持てるところだろう。

しかしながら、日本リーグを4連覇しているホンダ、このところ力がありながらタイトルから遠ざかっている湧永製薬もやすやすと大同を4連覇させるわけには行かないだろう。

組合わせから見てみると、ジャパンオープン1位と学生1位が注目される。ジャパンオープン1位の香川クラブは、1回戦がインテックス21。今年ジャパンオープンのタイトルを奪回したとは言え、2回戦を勝ち上がることは苦しい状況と思える。学生1位は、かなり期待が持てる。2回戦でHC東京と当たるが、若さを発揮した好ゲームを期待したい。

ベスト8で日本リーグの4強が待ち受けるが、ここまではどこのチームが勝ちあがって来るのかは、分からない。その時の調子や、チーム状況に左右されるといったところであろうか。

女子の部

女子の部は、ここのところ広島メイプルレッズの独擅場。全日本総合は3連覇中。日本リーグは4連覇中。今年の実業団選手権も制覇している。この牙城を崩すチームはどこかということになる。しかし全体的には、日立栃木、立山アルミなどの強豪チームが消え迫力不足は否めない。

広島の牙城を崩す一番手にはシャトレーゼが挙げられるだろう。今年の国体を制し、勢いに乗っており、初の総合制覇も夢では無くなって来ている。続くは、オムロン、北國銀行であるが、やや材料を欠いている。このほか期待が持てるのが学生チャンピオンであるが、インカレのモチベーションをどこまで維持できるかであろう。

組合わせから見てみると、1回戦から白熱したゲームが展開されるであろうと思われる。注目は、MIE. Violet 'IRISである。元日本リーグの選手を集め、日本リーグ参加を目指すチームである。チーム結成後直ぐに今年のジャパンオープンを制覇している。学生1位は2回戦でオムロンと当たるが、ここを上手く勝ち抜ければ、38回大会以来の大学チームの全日本チャンピオンが生まれるかもしれない。

地元となるHC名古屋は、実業団チームからクラブチームへと生まれ変わったチームである。どこまで地元の応援を背景にがんばれるかであろう。

第54回全日本総合ハンドボール選手権大会
男子の部組合せ

チーム名		1回戦 10日(火)	2回戦 11日(水)	3回戦 12日(木)	準決勝 13日(金)	決勝戦 14日(土)	準決勝 13日(金)	3回戦 12日(木)	2回戦 11日(水)	1回戦 10日(火)		チーム名
本田技研	1			① 12：00				③ 16：00			9	大崎電気
北陸電力	2	① 14：00								③ 17：20	10	筑波大学
日本体育大学	3		① 12：00			決勝			③ 16：00		11	HC岡山
HC東京	4				② 14：00	② 15：05	④ 18：00				12	トヨタ車体
本田技研熊本	5		② 14：00						④ 18：00		13	アラコ九州
香川クラブ	6	② 15：40								④ 19：00	14	豊田合成
インテックス21	7			② 14：00				④ 18：00			15	大同クラブ
大同特殊鋼	8										16	湧永製薬

開催期日：平成14年12月10日(火)～14日(土)
開催場所：枇杷島スポーツセンター

第54回全日本総合ハンドボール選手権大会
女子の部組合せ

チーム名		1回戦 11日(水)	2回戦 12日(木)	準決勝 13日(金)	決勝戦 14日(土)	準決勝 13日(金)	2回戦 12日(木)	1回戦 11日(水)		チーム名
広島メイプルレッズ	1		中① 12：00				中③ 16：00		7	シャトレーゼ
かながわガビアーノ	2	中① 12：00			決勝			中③ 16：00	8	御座候
東京女子体育大	3			枇① 12：00	枇① 13：00	枇③ 16：00			9	HC名古屋
ソニー セミコンダクタ九州	4	中② 14：00						中④ 18：00	10	筑波大学
MIE. Violet 'IRIS	5		中② 14：00				中④ 18：00		11	香川銀行TH
北國銀行	6								12	オムロン

開催期日：平成14年12月11日(水)～14日(土)
開催場所：枇杷島スポーツセンター・中村スポーツセンター

「ネット情報の充実を」

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

　各競技団体の多くはホームページを開設している。ハンドボール協会も例外ではない。愛好者はこれまでの「受け手」の情報収集から「選ぶ」スタイルに変わってきている時代である。

　日本協会では機関誌の改革とともにホームページの充実を目的に意見を集約する作業に取り掛かっているということだ。新しい広報活動としてはインターネット利用の価値は日ごとに高まるばかりといっていいだろう。

　ホームページの充実は避けて通れない課題である。とにかく速報性では、機関誌類は太刀打ちできないことは明白だ。それだけに日本協会としてもさらに各種大会の速報性を重視する必要があるだろう。

　各競技団体のホームページにアクセスしてみると、どんどん内容が充実してきている。とくに試合結果をスピーディーに提供しているのが目につく。また組み合わせや日本代表の最新情報、日本リーグのトピックスなど、これまでの提供方法の視点を変え、多様な情報をスピーディーに充実させることが大切だろう。

　最近、日本サッカー協会の取材申請のカテゴリーには時代を反映させるように「インターネット媒体」が加わった。それだけ今やインターネット専門のライターが活動していることの証明といえるだろう。

　一方で、いくらインターネット媒体が充実したとしても、機関誌の役割のメリットがなくなったということではあるまい。

　資料価値という点からいえば、こちらも欠かせない重要な情報源である。だから、インターネットと機関誌の住み分けが必要なのではないだろうか。新時代に即した方向性を見出すことが大切である。

　今後、日本協会がどのような結論を出していくか注目したいが、現在のホームページ、機関誌とも新たな発想にもとづいた方向転換をしていかなくてはならないことは明らかである。

　新しい感覚にそった情報発信。インターネットがますます一般の生活の中に根を張ることはいうまでもない。だからこそ、速報性を重視し、周辺情報の充実をしていかなくてはならない時期に来ているといえるのだ。

　経費の問題も存在するが、ハンドボール界の発展のためには、手をこまねいていては何も始まらない。時代を先取りするくらいの気持ちで、新しいメディアを活用してこそ愛好者を喜ばせることになり、ハンドボールに目を向かせることにもつながるはずである。

第1回チームマネジメント・シンポジウム講演録（抜粋）

過去10年間で、各競技のトップリーグを形成する、企業チーム200以上が消えています。特に1998年より激減しているのが現状です。

撤退の理由として、80％以上の企業が業績不振による、合理化の一環と答えています。

しかし、業績が良くなったら、復活するつもりであると答えた企業は3％で、60％の企業は復活しないと答えています。

このことから分かるのは、業績不振というのは撤退の理由ではなく、単なるキッカケであり、企業撤退の本当の理由は、企業がチームを維持するメリットを感じなくなったという事であります。一企業の一部活動という現況のままでいると、企業の撤退はいつまでも続くでしょう。

それでは我々は何をするべきなのでしょうか。

1つにはプロ化のステージを作ることです。

プロ化しているボール競技に、野球とサッカーJリーグがあります。

プロ野球チームで自立できているのは、3～4チームです。Jリーグでは2～3チームです。

Jリーグの半分以上のチームが黒字と言われているのは、親会社の支援があった後の決算内容です。プロリーグの経営実態は以上のようなものですが、止めたという声が出ないのは、ステージが既に出来上がっているからなのです。ダイエーが経営状況が苦しいにも拘わらず、ホークスを手放さないのは、イメージダウンを恐れているからです。

Jリーグのクラブの中には、地域に密着していない、観客動員力のないクラブがいくつか見受けられますが撤退はしていません。Jリーグというステージが出来あがっていて、マスコミを通じて人気度の高いスポーツなので、やめる訳にはいかないのです。

しかしながらプロ化をするには背景が整っていないとうまくいきません。メディアが注目するか、事業化できるか、が問題です。

メディアが注目するには

1 競技力が世界に通用する。

2 競技人口が多い。

3 話題性がある。等が必要です。

サッカーはまだ2回ワールドカップに出たばかりで、Jリーグ立ち上げまでは、とても世界に通用する実力ではありませんでした。しかしサッカーはNTS（ナショナル・トレーニング・システム）という、育成プログラムに取組んでいました。日本協会がナショナルトレセンコーチを全国各地に派遣し、日本協会の育成プログラムを各地域のコーチにしっかりと伝え、ピックアップされた有能な選手達を指導しているのです。



講演に先立ち挨拶をする市原則之ＪＨＡ機構会長

またサッカー協会はコーチングスタッフの育成にも力を注いでいます。

準指導員、C級、B級、S級のライセンスがあります。

ジュニアの指導には準指導員の資格が必要です。元全日本プレーヤーの柱谷哲二は昨年講習を受け、S級のライセンスを取得し、今年からコンサドーレ札幌の監督になりました。有名な日本代表プレーヤーであっても、資格がないとJリーグの監督にはなれません。国見高校の小峯監督はS級のライセンスを持っていますが、Jリーグの監督をするつもりはなく、高校生指導を目的とした、勉強のためにS級の資格を取得したそうです。

トッププレーヤー達の日常の強化とサッカー少年達に夢を与える、Jリーグの設立は成果を挙げております。

またサッカー協会は各年代の強化に積極的に取組んでいます。

今年U—16は100日間、U—19は114日間、海外遠征を含めた活動をしています。アジア競技会に出場し、アテネオリンピックを目指す、U—21はワールドカップ以降で51日間、活動をしています。

それでは、女子のバスケットがプロ化出来るか？と言えば、答えはノーです。現時点では、事業が成り立つという答えは出ません。

プロ化が無理だとしたら、どうしたら良いでしょうか？

一企業一部活動のままでは、部の廃止の話が持ち上がった時に、企業の考えに対抗する理由も、企業の外部から反対してくれる（チームを支持してくれ

る）人もいない状況となります。つまり企業外部に熱烈な支持者が必要なのです。

WJBL（バスケットボール女子日本リーグ機構）では地域密着を考え、チームのホームタウンゲームを年間5試合するように決めました。ホームタウンはチームの所在地、会社工場所在地、営業拠点等から決定します。

現状は地方協会に対戦カードを示して、主管権を買ってもらっていますが、1部リーグの試合は1試合35万円かかります。地方協会で核となって活動しているのは学校の先生を中心とするボランティアで、開催は年に1回程度です。従って年に5回の開催となると、県協会の協力を得ながらも、チームが主体的に試合運営をしていかなければなりません。

収支責任もチームが持つこととなり、観客動員もチームが積極的にしなければなりません。その為には企業関係者のみでは駄目で、地域からの支持が必要となります。従って日常の活動が大切となってきます。地元小中高生に対する指導とか、地元自治体との協力関係が必要です。

一度来られた客が満足して帰り、リピーターになってくれるような施策が必要で、チームが考え、努力をしていかなければなりません。

以上、ホームタウン化を切り口として、WJBLは現在展開しております。

また文部科学省が推進している総合型地域スポーツクラブと連係する事は、観客動員上の効果に加え、自治体との関係構築にも有効と言えます。

それではホームタウン化はどんな効果があるのでしょうか？

企業の雇用環境が年功序列、終身雇用の崩壊の如く、変化してきている現状で、これ迄の様な従業員の士気高揚、一体感の醸成といった、スポーツチームによるメリットは既に通じなくなってきている事を、認識しなければなりません。ホームタウンゲームの開催を切り口に、地域の住民や自治体、諸団体からの熱烈な支持を得られ、結果としてチームの活動がホームタウンの活性化に役立てば、チームを持つ企業が地域社会に貢献する事となり、企業としては社会貢献というメリットが生じる事となります。

全国にはスポーツが地域の活性化につながり、地域のアイデンティティーを確立している所があります。バスケットで有名な能代市は、駅のホームにバスケットリングがあります。5月の連休に開催される能代カップには、全国からまた韓国からもチームが参加し、連日会場は地域の住民で満員の状況です。



海保宣生氏

また福井の武生市は体操の町として、全国に発信されています。この様な状態になると、住民や自治体にとって大きなメリットになるでしょう。

チームの外に支持者ができると、新たにスポンサーが出現したり、選手の雇用に役立ったりする事も期待できます。ホーム試合が遠征費軽減など、チームに役立っていることは勿論です。

WJBLとしては、ホームタウンゲームの開催を切り口に、地域密着（地域活性化貢献）に取組んでおりますが、これ等の活動を効果的に実現する為には、チーム内に推進役が必要です。

チームの強化に関して、コーチングスタッフの評価や選手構成の是非について、的確に判断が出来、その判断に従って再編、改善を実行出来る。

また企業の意向とチームの意向を各々アジャストしながら、両者間のバランスをとる事が出来る。

そして企業外部からの支持を得る為に、自治体やメディアと日常的に接し、適切な対応が出来る。

いわばゼネラルマネジャーです。

WJBLの各チームのスタッフは部長、副部長、総監督、監督、顧問といった様々な肩書きの人達がいますが、ゼネラルマネジャーの機能を発揮出来る人は残念ながら少ないのです。

WJBLはチームを維持し、リーグを活性化する為にホームタウンゲームに取組んでおりますが、これらを実施すれば必ず成果が挙がり、企業のスポーツからの撤退を食い止められると断言は出来ませんが、今出来ることはこれしか無いとの信念で取組んでおります。

以上、現在我々が取組んでいる事を述べさせていただきました。何かご参考になれば幸いに思います。

2002年度 NTS活動経過報告

㈶日本ハンドボール協会
NTS運営委員会 委員長 蒲生晴明

2000年にスタートしたNTSは、今年度で3年目を迎えました。

今年度の主な活動として、すでにビデオ・教本の第2号を発行、ブロックトレーニングを全9ブロックで終了し、暮にセンタートレーニングを実施いたします。年を重ねるごとに、皆様方のご理解も深まり、内容も充実しつつあると思います。理想的なシステムに成長するには、まだまだ課題もあることと感じております。今後とも宜しくお願い致します。

＊ 2002年・主な活動経過 ＊

［4月］
第1回ジェネラルミーティング
ビデオ教本策定プロジェクト発足
策定プロジェクト第1回打ち合わせ
教本素案作成開始
［5月］
ビデオ作成会議
教本編集作業開始
［6・7月］
ビデオ・教本編集製版
教本・ビデオ販売開始
ブロックトレーニングスタート
［8月］
ブロックトレーニング
コア会議
［9月］
ブロックトレーニング終了
その他、活動に関し、協会機関誌、協会ホームページもご参照ください。

＊ 主な活動内容および結果 ＊

【教本・ビデオ】
2000年に続く第2版を作成。
「目指せファンタジスタ」をテーマに、基礎戦術、GK基礎トレーニング全般を収めました。各方面よりご好評をいただいております。
【ブロックトレーニング】
全地区分は整っておりませんが、現在までのアンケート集計結果をご覧ください。

＊ 訂正とお詫び ＊

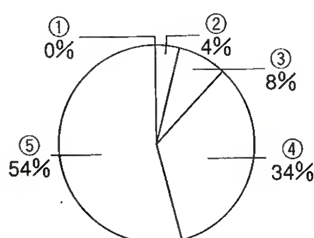
先月号の表2：NTSセンタートレーニングスケジュールの中で、U－16女子の開催日時・開催場所は下記のとおりです。おわびして訂正いたします。

	開催日時	開催場所	住所
・U－16女子	1／11～12	ブラザー工業	名古屋市瑞穂区苗代長15－1

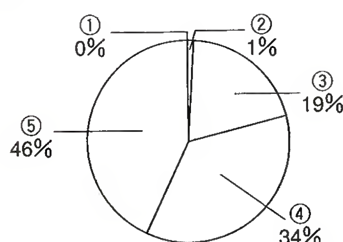
＊ ブロックトレーニング・アンケート集計経過報告 ＊

5段階評価
⑤ (Very Good) ←→ (Very bad) ①

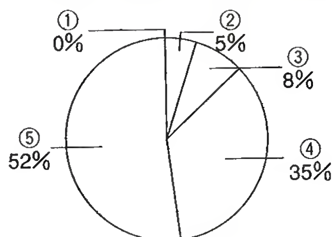
―― 指導者 ――
今回のトレーニングは、有意義でしたか？



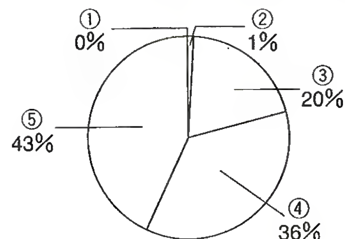
―― 選　手 ――
今回のトレーニングは、あなたのレベルが上がるきっかけになりましか？



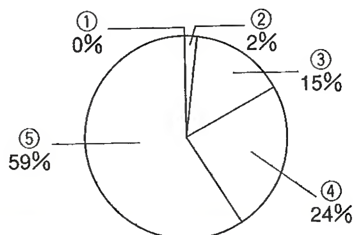
今回のトレーニングは、あなたにとって役立ちましたか？



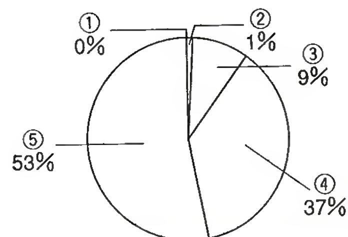
あなたにとって、今回のトレーニングの充実度は？



今後もこのような機会を増やしてほしいですか？



今回のトレーニングは楽しくできましたか？（小学生のみ）



⊙ NTS2002強化指導教本・ビデオ販売のお知らせ ⊙

皆様すでにご存知のように、本年度、ＮＴＳ強化指導教本・ビデオが製作されました。お買い上げ、ご覧になった皆々様からは、大変ご好評をいただいております。

ＮＴＳの強化指導教本・ビデオの売上金は、ＮＴＳブロック・センタートレーニング等の活動資金に日本ハンドボール界の強化・普及にダイレクトに活かされています。

今後とも、内容の充実を図るため、より一層の努力を重ねてまいりたいと思います。趣旨ご理解のうえ、皆様のご協力をお願いいたします。

＊ファックスでご注文ください!! この用紙を注文表とし、下記にご記入のうえ送信ください。

＊お電話でも受け付けます。

「03-3481-2361　日本ハンドボール協会」

までご連絡ください。

＊メールでも受け付けます!! handball@japan-sports.or.jp あてにご注文ください。

＊2000年バージョンとセットでどうぞ!! 2000年バージョンは9,000円で販売いたします。

ファックス注文票　FAX 03-3481-2367

ご氏名 ______________________

ご住所 〒 ______________________

お電話番号 ______________________

２０００年セット ________ 個

２００２年セット ________ 個

学連便り

U－23最終選考及び強化合宿について

中華民国ハンドボール協会（台湾）の好意で、アジア大会参加のチャイニーズタイペイナショナルチーム合宿に合流し、８月22日から28日までの７日間、高雄市にて選考及び強化合宿が出来た。世界学生選手権が、12月のブラジル開催であり、真夏の高温多湿下の大会をも想定しての台湾遠征であった。

各地区学連、全日本学連、日本協会強化委員会の各推薦された当初選手60数名を数次の選考強化合宿で選考し、台湾協会の好意で、最終選考と強化合宿を行うことが出来た。

12月25日から１月５日まで開催予定の第17回男子世界学生選手権大会派遣メンバーを決定する遠征でもあり、各選手のモチベーションは高かった。

台湾ナショナルチームとは４試合を行い１勝３敗という成績ではあったが、強化及び選考を目的としており、勝敗に拘わらずに、参加メンバーのＧＫ２名（前半と後半）・ＣＰ21名（３チームで各20分）を均等に起用してのもので初期の目的を充分に果たし得た遠征であった。

技術と知識のみでなく、ゲーム参加意識、モチベーション維持状況、外国人選手への対応性（国際試合での精神力等含）、トータル的な競技環境における順応性、進路（日本リーグチームへの進出希望他）、全日本チーム選手への指向等を確認し、世界の学生界を視野に入れた選考を行った。

◇参考までに遠征日程及び試合結果は次の通り。

８月22日　12時集合＝ミーティング
16時30分成田発（台北経由）
22時30分・高雄市宿舎着

８月23日　午前・午後＝練習

８月24日　午前＝練習・午後＝試合
日本　27（14－14、13－15）29　全台湾

８月25日　午前＝練習・午後＝試合
日本　21（10－14、11－15）29　全台湾

８月26日　午前＝練習・午後＝試合
日本　14（５－12、９－12）24　全台湾

８月27日　午前＝練習・午後＝試合
日本　30（20－９、10－13）22　全台湾

８月28日　６時宿舎発・８時50分高雄発～14時50分日本着

宿舎は、当初の予定では中華民国ナショナルトレーニングセンターであったが、アジア大会参加の各種目の合宿が急遽入ったとのことで、予定変更となり中国石油の研修センターへの宿泊となった。しかし、食事はナショナルトレセンの食堂でとった。トレーニングは全台湾チームと同じ場所（中華国光中学校体育館）であった。

全台湾は、アジア大会に向けての３ヵ月間の強化合宿中の２ヵ月経過時点で、メンバーも譚、高、葉、蘇、その他アジアナショナルサーキットに参加メンバー等が参加し仕上げの段階に入っていた。

【世界学生に向けて】

前回のポルトガル大会から、次回のブラジル大会を見据えた、チーム戦術等は、基本的には早い攻撃と能動的で積極性のある守備をベースに、宮崎（日体大）・内田（日本大）の両スペイン留学組を含めたチーム編成構想であったが、スペイン組が所属チームの事情から参加できず、チーム編成の変更を余儀なくされた。怪我や学業（卒業に関係する試験）の関係で、当初の候補から外さざるを得なかった選手もいたが、ユーゴスラビア・ポルトガル両世界学生選手権大会に参加し、尚且、スペイン留学経験のある国際試合豊富な前田・柳本を加え、Ｕ－19の有望選手も含めた一応のキャリアも積んでいる別表の様なメンバーとなった。

年末で、日系ブラジル人の正月帰国や、正月休みを利用した一般観光客のバッティングで混雑の関係もあり、フライト確保が難しいこと、また、年末年始休暇時期の航空運賃が割高になる為に、予算の関係にて航空運賃を含め諸経費削減対応で、11月下旬開催予定の合宿を取りやめ、直前合宿を組み入れて、12月18日の出発（19日到着で実質20日より開始）となった。25日に大会開催地のブラジリアへ移動、26日のテクニカルミーティング・オープニングセレモニーがあって27日より競技開始。１月４日競技終了後、現地発、帰国（日本着５日）になっているが、４日の競技時間やセレモニーの関係によっては、５日現地発、７日帰国になることもある。

Ｕ－23として全日本選手育成に成果のある有意義な大会参加を果たしたいと思っている。

第17回男子世界学生選手権大会参加メンバー

1.大会名称　第17回男子世界学生ハンドボール選手権大会

1.開催都市　ブラジル国ブラジリア

1.開催期間　2002年12月27日～2003年1月4日

1.合宿・他　2002年12月25日移動

2002年12月26日テクニカルミーティング・開会式

1.参加選手団

スタッフ	氏名	備考
チームリーダー	福地賢介	(財)日本ハンドボール協会理事・全日本学連理事長
テクニカルD	松　喜美夫	(財)日本ハンドボール協会男子強化委員会副委員長・全日本学連理事
ヘッドコーチ	松井幸嗣	全日本U−23監督・(財)日本協会男子強化委員会・全日本学連理事
コーチ(情報分析等含)	田村修治	全日本U−23チームコーチ・全日本学連世界学生専門委員会
メディカルS	沖本信和	(財)日本ハンドボール協会医科学委員会委員・産業医科大学病院
プレーヤー		

背番号	ポジション	氏名	所属大学	身長cm	体重kg	出身高等学校	利腕
1	GK	木下国大	中京大学	182	81	岡崎城西高等学校	右
12	GK	浦和克行	日本体育大学	176	68	伊奈高等学校(茨城)	右
2	CP	中谷哲也	中部大学	190	92	高岡向陵高等学校	右
3	CP	香川将之	中部大学	184	84	金沢市立工業高校	右
4	CP	猪妻正活	早稲田大学	180	73	此花学院高校(大阪)	右
5	CP	嘉古田奨吾	日本体育大学	168	68	千原台高校(熊本)	左
6	CP	福田大樹	東海大学	190	77	湘南工科大学附高	右
7	CP	村上秀行	大阪経済大学	175	66	北陽高等学校(大阪)	右
8	CP	河瀬豊	大阪体育大学	193	110	四日市中央工業高	右
9	CP	長村昇	日本大学	176	77	横浜商工高等学校	右
10	CP	岩永生	筑波大学	182	70	瓊浦高等学校(長崎)	右
11	CP	吉田尚寛	中部大学	182	95	高岡向陵高等学校	右
13	CP	飯田健一	日本体育大学	175	75	伊奈高等学校(茨城)	右
14	CP	柳本義文	日本体育大学	167	67	久留米工大附属高	右
15	CP	前田誠一	日本体育大学	184	82	浦和学院高等学校	左
17	CP	細谷紀彦	大阪体育大学	184	82	香川中央高等学校	右

※帯同審判員は日本協会指名の『仲田　稔氏・植村　彰氏』の両国際審判員です。

女子日本代表チーム欧州（チェコ）遠征
男子日本代表候補チームドイツ遠征
試合結果

女子

■6月2日
成田発ＪＬ407　13：00→18：00　フランクフルト着
フランクフルト発ＯＫ539　22：00→23：05　プラハ着

■6月3日
トレーニング

■6月4日〈第1戦〉
日本　２５－２３　AGE,HBC,Jicin（男子チーム16～17才）
個人得点：田中９、大石４、羽出重３、青戸２、山田２、中村２、坂元２、藤浦１

■6月5日〈第2戦〉
日本　２５－２６　チェコナショナル
個人得点：青戸７、山田７、田中４、中村３、藤浦２、羽出重１、河本１

■6月6日〈第3戦〉
日本　２１－２２　AGE,HBC,Jicin（男子チーム16～17才）
個人得点：稲吉６、屋嘉４、山田３、坂元３、菅谷３、岡崎２

■6月9日
〈第4戦〉
日本　２７－１９　SGK,HBC,Jicin（男子チーム16～18才）
個人得点：山田７、青戸６、藤浦３、中村３、屋嘉２、田中２、稲吉１、菅谷１

〈第5戦〉
日本　３２－２２　スラビアプラハ（男子チーム16～18才）
個人得点：岡崎８、屋嘉５、ヤマザキ５、坂元４、菅谷４、山田３、田中３

〈第6戦〉
日本　２５－２４　スラビアプラハ（男子チーム16～18才）
個人得点：山田７、大石４、藤浦３、屋嘉２、中村２、稲吉２、田中２、河本１、青戸１、羽出重１

■6月10日
トレーニング

■6月11日〈第7戦〉
日本　３１－２１　チェコジュニア
個人得点：山田５、藤浦４、稲吉３、菅谷３、岡崎３、河本３、佐久川２、金城２、坂元２、屋嘉２

■6月12日
〈第8戦〉
日本　３６－２１　チェコジュニア
個人得点：山田６、金城５、田中４、屋嘉４、岡崎４、藤浦３、稲吉３、山崎３

〈第9戦〉
日本　２８－２６　アラリスク　CRCプラハ
（男子チーム18～19才）
個人得点：山田９、藤浦７、中村３、田中３、青戸２、佐久川２、河本１、稲吉１

■6月13日〈第10戦〉
日本　２３－１７　スラビアプラハ
個人得点：田中５、山田５、佐久川４、青戸３、金城２、中村２、藤浦１、河本１

男子

■8月10日（土）
日本　２３－２５　Wallau-massenheim
（ブンデスリーグ１部７位）

■8月12日（月）
日本　１９－１９　Stralsund
（ブンデスリーグ２部　北地区７位）

■8月15日（木）
日本　１９－１８　Schwerin　第１戦
（ブンデスリーグ２部　北地区６位）

■8月16日（金）
日本　２５－２３　Schwerin　第１戦
（ブンデスリーグ２部　北地区６位）

■8月18日（日）
日本　２３－２１　Stockelsdolf（地域リーグ）

Pfalz CUP大会第１日目（全て15分ハーフ）

■8月23日（金）A組予選
日本　１６－１０　SKp Secovce（スペイン）
日本　１３－１３　TSG Friesenheim
（ブンデスリーグ２部南地区３位）
＊Ａ組１位で通過

Pfalz CUP大会第２日目

■8月24日（土）　準決勝（１５分ハーフ）
日本　１３－１２　Astrashann
（Ａ組１位）　　（Ｂ組２位）
決勝（25分ハーフ）
日本　１５－２８　Essen
（ブンンデスリーグ１部５位）（Ｂ組１位）
※Pfalz CUP大会結果　日本第３位

Edeka CUP大会

■8月25日（日）
予選（15分ハーフ）
日本　１１－　８　Heddesheim,（地域リーグ）
日本　１５－１４　Leutershausen（ブンデスリーグ１部５位）
決勝（３０分ハーフ）
日本　２７－２１　Essen（ブンデスリーグ１部５位）
※Edeka CUP大会結果　日本２位
☆宮崎大輔選手が最優秀選手に選ばれる。

■8月28日（水）
日本　３７－　７　Wildungen（地域リーグ）

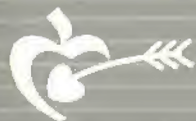
■8月30日（金）
日本　２０－２１　Grobwallstadt（ブンデスリーグ１部１１位）

■8月31日（土）
日本　２３－３３　Lemgo（ブンデスリーグ１部３位）

※８月30日、31日のブンデスリーグ１部上位のチームと戦い大型のDFに対してスピードを活かしたセット攻撃がキチッと決まったことは、大きな収穫であった。また、個人的には宮崎のパフォーマンスで膠着状態の中でも、点がとれることも大きな収穫であった。

特に、この２試合で、10点と９点をもぎ取りブンデスリーグの関係者も驚いていたくらい高い攻撃能力を評価していた。

これも、スペインでの留学からきた成果と判断する。



見ているだけでも楽しくなっちゃう!

こだわり商品勢揃いのインターネットショッピングサイト

http://www.toki-meki.com/

+@ スポーツ | +@ライフ | +@ ビューティ | +@ 家電 | +@ ギフト | +@ キャラクター | +@ ファッション | +@ サービス

◆◆◆◆◆◆◆ おすすめアイテム ◆◆◆◆◆◆◆

効率よく運動して、健康ボディになろう!



Be. Quarter（20個セット）

●商品番号：300-003

5,500円

ゼリー状の機能性飲料。運動を開始してから脂肪が燃焼されるまでに要する時間は約20分。Be.Quarterを運動開始15分前に飲むことでこの脂肪の燃焼開始時間を大幅に短縮できます。
スッキリとしたりんご味で1パック34kcal。



■商品番号一覧

	商品番号 ライト	商品番号 スタンダード	商品番号 ヘビー
22cm	300-004		
23cm	300-005		
24cm	300-006	300-010	
25cm	300-007	300-011	300-014
26cm	300-008	300-012	300-015
27cm	300-009	300-013	300-016

シェイプアップウエイトインソール

●ライト 2,680円
●スタンダード 2,950円
●ヘビー 3,130円 ※商品番号は上記の表をご覧ください。

通勤時や散歩時に靴の中に入れておくだけ。基礎体力のアップなどあらゆるスポーツの基礎トレーニングとして効果的です。



アジャストダンベル5kg（1組）

●商品番号：300-017

14,300円

グリップ部分に柔らかいウレタンを使用。2～5kgで重さを調節できます。便利な専用収納ケース付き。



握力計

●商品番号：300-001

9,000円

測定範囲が0kg～100kgの握力計。男性向けタイプ。黒と白のコントラストが映える文字盤です。強力ポリカーボナイト樹脂製。



握力計 グリップA

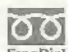
●商品番号：300-002

13,500円

測定範囲が0kg～100kgの握力計。計測針を強化プラスティックで保護しています。レッドとブルーの2色使いのデザイン。

表示価格には消費税・配送料は含みません。支払い方法など、詳しくはサイトをご覧下さい。

お申し込みは、下記要領で

お電話からは  FreeDial 0120-215-621

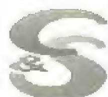
受付時間：10:00～17:00（土日祝も営業しております） 住所：東京都中央区京橋2丁目8番18号昭和ビル3階

パソコンからは http://www.toki-meki.com/

ケータイからは http://mobile.toki-meki.com/

シーアンドエスグループは、日本ハンドボールチームを応援しています。

株式会社シーアンドエスは、サークルケイ・ジャパン株式会社と株式会社サンクスアンドアソシエイツの共同持株会社です。

 シーアンドエス　サークルK　サンクス　ときめきドットコム



1．日　時　平成14年10月26日（土）14：30～17：00
2．場　所　サウスブリーズホテル（高知市）
3．議　題
（1）全体会　①現状報告
②プロジェクト21について
③スポーツ弁当について
④その他
（2）分科会　①地域における小学生チームを中心としたクラブチームの立ち上げについて
②日本のハンドボール大会システムについて
③NTSシステムについて
④がんばれ10万人会について
（3）全体会　各分科会からの報告

全体会における主な発言内容

1. 山下副会長による開会あいさつ

今国体の開催に際して地元高知県協会には大変お世話になり、厚くお礼を申し上げる。さて、先日閉幕した釜山アジア大会では、男女とも4位に終わりメダルなしという結果で非常に残念であった。アジア連盟内での中東諸国の発言力の増大とレフェリングの不公平さ以上にクウェート、カタール両国は国を挙げて強化をしていた。これらに対抗するため韓国の声かけにより東アジア連盟を結成する動きがある。

日本協会においては、スポーツ弁当事業などのマーケティング部門を強化しての自主財源づくりが近々の課題である。

2. 大西専務理事による現状報告

専務理事に就任して1年半が経ったが、普及、強化とも低迷している。その打開策として「Project21」を策定した。日本の緊急課題は、ナショナルチームが世界で活躍できないことにある。来年神戸で開催予定のアテネ五輪アジア予選ではなんとしても男女とも突破したい。そのためにも日本リーグの充実は欠かせない、皆様の応援を是非お願いしたい。

また、この報告書では地域クラブの育成・強化を取り上げているが、現在では中学・高校生年代でのクラブチームが目指すべき大会がない。各連盟の大会と平行して現行のジャパンオープンを年代別大会としていきたい。その際にはNTSとどう連動させていくかも今後の検討課題である。

10万人会は、平成11年に発足して各都道府県の推進委員を中心として会員獲得活動を行ってきているが、当面の目標である3万人にも届いていない状況である。

（村松常務理事が資料にて補足説明）

3. 石井常務理事より マーケティング委員会活動の説明

日本リーグからの企業チームの撤退が相次ぎ、非常に厳しい財政状態にある。現況の日本経済状況下では新たな支援協賛企業の開拓は困難であり、現オフィシャルスポンサーの支援継続に頼るしかなく、是非とも「スポーツ弁当」の活用増大にご協力いただきたい。

4. 緒方常務理事・強化本部長による アジア大会報告

すでにご紹介されたように男女とも4位という予想外の結果に終わった。来年のオリンピック予選に向けて早急に強化策を打ち出したいと考えている。

5. 市原常務理事からアジア大会視察報告（感想）

今回のアジア大会を見てアジアのスポーツは様変わりしたなと感じた。日本がスポーツ大国だった時代から日・中・韓の3強時代を経て、現在は中東諸国やウズベキスタンなどのロシア系諸国の台頭が目立った。

全日本チームについての感想として、男子は体格的なものは劣っていないし潜在能力はあるが、気力・体力が足りない。中国戦のような力がコンスタントに出せれば中東には勝てるはずである。男子については指導方法が問題である。マナーも悪い。

女子については、気力・体力はあるが体格が劣っている。160㎝台のフローターでは勝てない。NTSを活用して選手の早期発掘に努めなければならない。

6. 蒲生参事からNTSについて報告

NTS事業については、7・8・9月でブロックトレーニ

ングを終了、センタートレーニングへの推薦が決定したところである。

来年度以降の課題としては財政面の問題である。これまで国庫補助事業として進めてきたが、来年度以降はtotoからの助成となることから、費用の大幅な見直し、減額が必要となり、現在その作業を栗山コーディネーターと進めている。皆様には是非、ビデオセットの購入をお願いしたい。

ＴＶ神奈川にて本場ヨーロッパのゲームを来年の３月まで30回の予定で放映している。是非ご覧なっていただきたい。（同氏が解説を担当）

7. 川上常務理事から日本リーグについて報告

日本リーグとしては、お金をもらって観せる試合内容、試合会場になっているかということを問題意識として持っている。

今年度は、加盟チームの減少もあり３回総当り制を導入した。現在、既に来年度の試合日程の検討に入っているが、ホーム＆アウェイ以外のもう１試合の開催について是非地方の協会の皆様に手をあげていただきたい。

全国理事長会分科会まとめ

全国理事長会での分科会討議は、従来の全体会では発言の機会が少なく、充分な討議が出来ないとの意見があった。そこで今回は、全体を５つのグループに分け、さらに全国のブロック別の意見も分かるようにほぼ均等に振り分けられた。グループでの司会進行は各常務理事が当たり、その他の日本協会役員は、均等に各グループに振り分けられた。

グループでの討議テーマは前掲のように示されていたが、時間の都合もあり、重要と思われるテーマから議論することとした。

分科会終了後、各グループ代表者から討議内容について報告がなされた。報告者は、第１グループ・福島県後藤理事長、第２グループ・富山県越前理事長、第３グループ・熊本県葦原理事長、第４グループ・京都府藤本理事長、第５グループ・福岡県田中理事長であった。

各グループの討議内容は、ＮＴＳシステムと小学生問題がほとんどを占めた。ＮＴＳ問題については、以下のような意見が述べられた。

・３年目を迎えかなりＮＴＳに対する理解が進んだ。
・ブロックトレーニングの開催時期、場所、費用問題について
・ＮＴＳから選出された選手とU―16・19、ナショナル選手との一本化について
・学校現場と引率について
・各書類の伝達について





分科会内容発表
発表者、田中守福岡県理事長

小学生問題については、以下のような意見が述べられた。

・地域のスポーツ少年団が、村おこし、町おこしとして行政の後押しがある
・スポーツ少年団が中学校に繋がっていない
・地域協会の教室開催に参加者が多い
・小学校が一番大切
・小学生の立ち上げは、親、先生、地域が中心
・経験が無いところでもやろうとしているが、資料は学校体育研究会が冊子を作っている
・小学校から中学校へは、地区での企画、働きかけが重要

分科会では、８人から10人ほどの小グループに分かれたため、一人ひとりの発言の機会が増え、より具体的な意見が多く出てきた。

最後に大西専務理事より、都道府県協会より出された意見を今後の日本協会の運営に取り入れていきたい旨発言があり閉会となった。

フォト・オブ・ザ・イヤー アジアが初の1位受賞

昨年国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）が募集した第６回"フォト・オブ・ザ・イヤー"コンテストの結果がこの度発表され、アジア初の１位となった。受賞者は日本の佐々木直人氏で、2001年秋田ワールドゲームズ・ビーチハンドボール大会でのダイナミックな１シーンを永久記録にとどめることになった。日本のメディア界も、新聞のトップページ全面を飾れるようなスナップショットに強い印象を抱いている。

2001年度応募写真を見たＩＨＦの審査員たちも、このダイナミズムには魅力があると全員一致で佐々木氏の写真を選んだ。現在世界中で行われているこのトレンディなスポーツ、ビーチハンドボールにさらにもっと衆目を集めたいという願いは確かに審査員たちに影響があったようだ。優勝者の選択を行った審査員にはＩＨＦ専務理事レイモンド・ハーン氏、ＡＩＰＳ（国際スポーツ報道協会）特別委員会専務理事ヨーケン・ラインハルト氏も含まれている。

優勝者の佐々木氏には受賞の連絡と共に賞金として５千スイスフランが贈られる。

過去の受賞者は1992年ゲルハルト・ウール(ドイツ)、1996年カースティン・ヨンソン（オーストリア)、1998年サンドル・コドルチ（ハンガリー)、1999年ビョルン・ラングセム（ノルウェー)、2000年ビョルン・モェ（ノルウェー)。

写真は全て８月発行の『ワールドハンドボールマガジン』第２号に発表される。

国際ハンドボール連盟は2002年度もフォト・オブ・ザ・イヤーを募集する。コンテスト参加条件は『ワールドハンドボールマガジン』2002年第３号とプレスリリースで発表される。

（訳者注：佐々木直人氏は秋田魁スポーツ新聞社カメラマン）

近代化のための広範な課程に着手 ハンドボールの世界的組織ＩＨＦが バーゼルに新しい事務局オフィス

バーゼル。まず始めに新しい事務局の建物、それから新しい組織、となるであろう。国際組織ＩＨＦが近代化のための広範な課程をスタートさせた。国際ハンドボール連盟は10月２日スイスの町バーゼルで多数の出席者を前に新しい事務局オフィスをオープンした。11月20日～24日、サンクトペテルブルクで開かれるＩＨＦ総会の議題の１点は、"協会"の機構について議論することとなろう。

加盟連盟数147を数えるＩＨＦは世界最大のスポーツ連盟のうちの一つだが、バーゼルのランゲ・ガセにある快適な邸宅に50年以上居を構えていた。結局最近ではあちこちに綻びが目立つようになり、ＩＯＣ本部のあるローザンヌに移転することも考えられた。しかし最終的にはスイスのドイツ語圏に忠実なまま留まることになった。購入したばかりのこの建物は以前の建物とは目と鼻の先である。

ピーター・メリアン通り23番地のこの建物には新旧が同居している。建物の中心部分はちょうど100年が経過しており、多数の風格のある部屋と高級内装がほどこされている。70年代に増築が行われ、より実用的になった。ＩＨＦでは合計５階のフロアに900平米のワーキングスペースを確保している。建物内機器も近代的国際協会の要求を満たしている。

協会のＣＡＯ（チーフ・アドミニストレーティブ・オフィサー）であり、ＩＨＦ新本部のトップであるレイモンド・ハーン専務理事は、スタッフのみでなく全体スペースが広がったことを喜んでいる。｢ようやく委員会にも各団体にも完璧な労働環境が整った。つい先日もムスタファ会長がＩＨＦ加盟連盟からのゲストやＩＯＣ、協会のパートナーたちを初めてこの建物に迎えたところである。エジプト出身の同会長は2000年からその職にあるが､｢協会の世界的なイメージのためにもこうしたハンドボールセンターは非常に重要である」と語っている。彼はＩＨＦを将来のめたに強化することを目指し、そのゴールに達するにはこうした事務局が非常に役立つと付け加えた。

この協会の第一機関である第29回ＩＨＦ総会の準備が続いており、11月半ばまでこの建物の会議室はあわただしさに包まれるだろう。協会の総会は２年毎に開催されるが、サンクトペテルブルグではＩＨＦ評議員会が時代に合った、効率の良い組織のための草案を提案する。しかしながら今回は人事の決定を要求していない。現在のＩＨＦ首脳陣は2004年までの任期で選出されている。

（訳者注：この号ではＩＨＦ国際ハンドボール連盟のことを何箇所か「協会」と表しています。）

2003年1月20日～2月2日 ポルトガル 男子世界選手権 試合日程

Aグループ		Bグループ		Cグループ		Dグループ	
チュニジア	TUN	ドイツ	GER	フランス	FRA	スウェーデン	SWE
スペイン	ESP	アイスランド	ISL	ロシア	RUS	デンマーク	DEN
ユーゴスラビア	YUG	ポルトガル	POR	クロアチア	CRO	アルジェリア	ALG
クウェート	KUW	カタール	QAT	サウジアラビア	KSA	エジプト	EGY
モロッコ	MAR	オーストラリア	AUS	ハンガリー	HUN	スロベニア	SLO
ポーランド	POL	グリーンランド	GRL	アルゼンチン	ARG	ブラジル	BRA

予選ラウンド				
日付	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
	会場	会場	会場	会場
	Guimaráes	Viseu	Madeira	São João de Madeira
月日	試合	試合	試合	試合
1/20	TUN－KUW	GER－QAT	FRA－KSA	SWE－EGY
	ESP－MAR	ISL－AUS	RUS－HUN	DEN－SLO
	YUG－POL	POR－GRL	CRO－ARG	ALG－BRA
1/21	KUW－YUG	QAT－POR	KSA－CRO	EGY－ALG
	MAR－TUN	AUS－GER	HUN－FRA	SLO－SWE
	POL－ESP	GRL－ISL	ARG－RUS	BRA－DEN
1/22	休み			
1/23	TUN－POL	GER－GRL	FRA－ARG	SWE－BRA
	ESP－YUG	ISL－POR	RUS－CRO	DEN－ALG
	MAR－KUW	AUS－QAT	HUN－KSA	SLO－EGY
1/24	休み			
1/25	ESP－KUW	ISL－QAT	RUS－KSA	DEN－EGY
	YUG－TUN	POR－GER	CRO－FRA	ALG－SWE
	POL－MAR	GRL－AUS	ARG－HUN	BRA－SLO
1/26	TUN－ESP	GER－ISL	FRA－RUS	SWE－DEN
	YUG－MAR	POR－AUS	CRO－HUN	ALG－SLO
	KUW－POL	QAT－GRL	KSA－ARG	EGY－BRA
1/27	休み／本戦ラウンドに進めなかった国は帰国			
1/28	休み			

本戦ラウンド				
月日	Iグループ	IIグループ	IIIグループ	IVグループ
	会場	会場	会場	会場
	試合	試合	試合	試合
1/29	1位A－4位B	1位B－4位A	1位C－4位D	1位D－4位C
	2位B－3位A	2位A－3位B	2位D－3位C	2位C－3位D
1/30	1位A－2位B	1位B－2位A	1位C－2位D	1位D－2位C
	3位A－4位B	3位B－4位A	3位C－4位D	3位D－4位C
1/31	休み／決勝ラウンドに進めなかった国は帰国			

準決勝／順位決定戦				
月日	No.	試合	チーム	会場
2/1	77	2位I－2位III	未定	リスボン
	78	2位II－2位IV	未定	リスボン
	79	1位I－1位III	未定	リスボン
	80	1位II－1位IV	未定	リスボン

決勝				
月日	順位	試合	チーム	会場
2/2	7～8位	No.77敗者－No.78敗者	未定	リスボン
	5～6位	No.77勝者－No.78勝者	未定	リスボン
	3～4位	No.79敗者－No.80敗者	未定	リスボン
	1～2位	No.79勝者－No.80勝者	未定	リスボン
2/3	残った全チーム帰国			

※グループ内のスローオフ時間と日付はＩＨＦとスポートファイブによって決定される。

審判部だより

競技規則解釈に関する通達

㈶日本ハンドボール協会審判部長　斉藤　実

平素よりハンドボール協会審判部活動に対し、ご協力を賜り感謝いたしております。いよいよ全国大会が新競技規則の基に開始されます。

過日、広島にて開催いたしましたトップレフェリー研修会の折り、新競技規則の中での疑問点に関し、ＩＨＦに問い合わせておりました事項のうち、回答のあったものを示し、本年度より採用通達いたしますので、関係各位に周知徹底をお願いいたします。

1　自チームに負傷者が出た場合、チームから入場可能な２名は、ベンチのどこからでも入ってよい。

2　交代を目的として、不正に交代地域に戻り、すぐに正しくやり直しても、不正交代として扱う。

3　スローオフ時の不正の防御（ポイントに立っている者の前を横切る或は接触する、ポイントに立っている者にパスされたボールを体に当てる等）も、各種スローの妨害として、競技規則書 15 －７の最終段落を適用する。

4　ベンチのプレーヤー、またはチーム役員がオフィシャルに告げずに交代地域を離れた場合（遠く離れたボールを取りに行くことも含め）。

☞１回目　その該当のプレーヤーまたはコーチをよび注意。その後はルール的に適用する。

☞デレゲーター（立会人）はこのようなことが起きないように、常にベンチの動きに気を配っておく。このようなことで、レッドカードが出されるのは、ゲームの面白さをなくすことになる。

5　交代地域内に転がってきたボールを拾い、スローを行うために来たチームメイトに投げ渡すことは、なんら問題無い。

審判部報告

1　公認Ａ・Ｂ級審判審査結果

Ａ級	申請者	２８名
	受験者	２２名
	欠席者	６名
	実技不合格	６名
	筆記不合格	４名
	体力不合格	０名
	合格者数	１６名
Ｂ級	申請者	４３名
	受験者	３６名
	欠席者	７名
	実技不合格	１名
	筆記不合格	２名
	合格者数	３３名

2　ＪＨＡレフェリーコース前期状況

開催地
　山梨県甲府市
モデル
　関東甲信越高校生強化合宿
申請者
　１４名
欠席者
　０名(男子13名､女子１名)
後　期
　平成 15 年３月
　愛知県名古屋市開催

3　平成 14 年度全日本総合選手権大会審判員

審判員	浜田浩和・小笠原久朗
	仲田　稔・植村　彰
	家永昌樹・福島亮一
	武智誠治・松原誠起
	藤井俊朗・大熨嘉彦
	阿部羅大造・浜野大介
	仲里　貢・中地健三
	浅野幹也・神谷真次
リザーブ	小山　勉・佐路清隆
	安田　寛・永春文義
	原井　進・角　直樹
	浅野昭彦・荻野俊夫



平成14年度9月常務理事会

日　時　平成14年9月7日（土）
　　　　11：00～16：00
場　所　東京体育館第4会議室
出席者　山下副会長、大西専務理事、
　　　　理事8名、監事1名、
　　　　参事2名、事務局4名

議題

アジア大会他結果報告

○第5回世界女子学生選手権大会（スペイン）
○第9回アジア女子選手権大会（カザフスタン）
○第7回アジア女子ジュニア選手権（ヨルダン）
○第8回男子ジュニアアジア選手権大会（タイ）

ナショナルサポートよりコメントがあった。
U－23男子チーム担当よりコメントがあった。

各監督よりの要望

国際大会のカレンダーについて、スケジュール委員会で年間の日程調整を図って欲しい。日程調整を考えて欲しい。高校三年生もジュニアチームに入れて欲しい。

ジュニアの成功は、ナショナルの成功に繋がる。選手発掘に日本全国隈なく探してもらいたい。

報告事項

1．高松宮杯について、今後は高松宮記念杯とし、年度初めに関係団体のスケジュールを宮家に持っていく。
2．toto配分決定について報告あり。
3．プロジェクト21について報告あり。
4．日本リーグ訪問の件について報告あり。
5．スポーツ弁当部会より報告あり。
6．大分国体視察報告。
7．全日本総合について、平成15年度は広島県、平成16年度は大阪府に決定。
8．競技者育成技術委員会報告
9．日本リーグより報告
10. トップレフェリー研修会報告
11. 代表チーム大会及び親善試合報告
12. その他

平成15年2月にNHKスポーツ教室にて「コーディネーショントレーニング」を放映

日本リーグで記者懇談会を開催

審議事項

1．事務局体制に関わり、事務局長の定年について審議。
2．奨学生、留学生制度実施要綱について、一部訂正を加えて承認された。
3．全国理事長会について、議題を纏めて提案し、小グループで各理事長の意見を聞き討議する。
4．アジア連盟正常化対策について、東アジアが結束しなければならないとの意見があった。
5．クラブ連盟について、再構築を考えている。
6．クラブ選手権西地区大会棄権チームについて説明があり、規程通り厳重注意を与えることで結審。
7．2003年アテネオリンピックアジア予選について、9月21日に準備委員会を開催。11、12、翌1月に組織委員会を開催予定。予算については、再調整の必要あり。
8．タラフレックスの件について説明があり、次回に報告。
9．滑らないボール使用開始について、競技運営部でいつからどうするか結論を出す。
10. 強化方針について
11. アジア競技大会関連
12. 国際大会（スーパーチャレンジ2003）開催について、来年9月にオリンピック予選があり、国際大会を開催する必要がないとの意見。
13. アジア競技大会壮行会について再検討。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【青森】神谷千章【岩手】田口まり子【福島】山中寛之、渡辺朋美、森田真美、柳沼直樹、添田大輔、迎　美樹【埼玉】後竹章広、境井秀三【千葉】岡本　聡【東京】宮本奈芳美、徳田周子、関本久美、増田一郎、渡辺慶寿、小川　勇、小川洋子、菅原めぐみ【富山】鳴田重春【愛知】西口誠一郎、横地宇吉、須原真理子【三重】加藤克彦【大阪】山田　稔、山中善之祐、中塚冨佐子【兵庫】藤浦摩耶、幸田末之【岡山】後山富士水【山口】木原　節【熊本】西窪勝広、大島隆志【宮崎】税所健好

【12月の行事予定】

★大会

◆第54回全日本総合選手権大会
12月11日(水)～14日(土)
名古屋市枇杷島スポーツセンター、中村スポーツセンター
(14日(土)の男子決勝戦は、ＮＨＫ教育ＴＶにて放映予定)

◆第17回男子世界学生選手権大会
12月27日(金)～１月５日(日)／ブラジル・ブラジリア

◆第11回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ
12月25日(水)～27日(金)／堺市家原大池体育館

★会議

◆常務理事会：12月14日(土)／名古屋市

訂正とお詫び

11月号32ページ会議予定で、「全国理事長会議11月９日(土)」は「**全国理事会11月９日(土)**」の誤りでした。お詫びして訂正致します。

HAND BALL CONTENTS Dec

(登録チームの講読料は登録料に含む)

2002コートの主役



PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革



PKCH2-AD　　¥4,500 パ

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革



MIKASA
株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四三六号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十四年十一月二十六日印刷

平成十四年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一

電話 代表 三四八一―二三六一

振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円